

北上山系の植物相とその植物地理学的考察(Ⅲ)*

菊 地 政 雄

Floristic and Geobotanical Studies on the Kitakami Mountain

Range in the Northeastern District of Honshu, Japan (Ⅲ)

MASAO KIKUCHI

北上山系植物目録 [3]

CHEPODIACEAE アカザ科

271. *Chenopodium dryoniaefolium* Bunge ミドリアカザ

標本産地：陸中；重茂（菊地，1962），姫神山麓（菊地，1962），大川目（菊地，1952），岩泉町欠山（菊地，1957），葛巻（菊地，1959）。陸奥；福岡（菊地，1965）。

一般分布地域：日本（本州北中部），東シベリア，満州。

記事：稀な植物で，しばしば石炭岩崩壊地に見い出される。次種と混同され，又同一種と見る見解もあるが，花被片はより広く（広倒卵形または橢円形），胞果の表面は平滑，種子の縁部が竜骨状に突起しているなどの特徴により区別される。花は8月下旬に開き9月の中旬頃に成熟した果実をつける。

272. *C. koraiense* Nakai イワアカザ，ヤマアカザ

標本産地：陸前；矢作（菊地，1934）。陸中；山形村戸呂町（菊地，1952，藤沢（菊地，1930，1947，1959）。

一般分布地域：日本（本州，四国，九州），朝鮮。

記事：前種同様に稀な植物で，稍同一の環境の所に生育している。又前種に非常に似た植物であるが，葉はより広く，花被片は反対により狭く（長橢円形または狭倒卵形），胞果の表面には粒状突起があり，種子の縁部に竜骨がないことなどの特徴によって前種から区別される。山形県の山寺付近からも採集された（菊地1961）。

273. *C. glaucum* Linnaeus ウラジロアカザ

標本産地：陸前；津谷（菊地，1959），岩井崎（菊地，1956），今泉（菊地，1934），大船渡（菊地，1957）。陸中；津軽石（菊地，1946），玉の脇（菊地，1943），野田（菊地，1958）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），欧州全域，アジア温帯全域，樺太，カムチャツカ，北米，グリーンランド，南米，アフリカ，オーストラリア。

* 第2報(Ⅱ)は学芸学部研究年報第25巻(1965)第3部(pp.51~82)に掲載。

記事：欧亚大陸の原産であって、日本をはじめ、その他の地域に分布するものは帰化的な伝播とされる。一般に内陸的分布の植物であるが、日本では主に海岸附近の塩沼地に生育している。

274. *C. album* Linnaeus シロアカザ, シロザ

標本産地：陸前；広田（菊地, 1936）, 志津川町椿島（菊地, 1956）, 金華山島（菊地, 1961）。陸中；軽米（菊地, 1956）, 仙人峠（小水内正明, 1957）。

一般分布地域：日本（北海道, 本州, 四国, 九州）, 欧亚大陸温帯一般。—世界各地に伝播している。

var. stenophyllum Makino ホソバアカザ

標本産地：陸前；気仙沼（菊地, 1957）, 今泉（菊地, 1933）, 広田（戸羽親雄, 1953）, 高田松原（菊地, 1933）。

陸中；金浜（菊地, 1962）, 津軽石（菊地, 1946）, 種市（菊地, 1950）, 久慈（菊地, 1949）, 田野畑（菊地, 1947）。**陸奥；**鮫（菊地, 1961）, 種差（菊地, 1954）。

一般分布地域：日本（北海道, 本州, 四国, 九州）。

記事：当地域に於てはシロアカザ（一般にアカザをいう）は各地路傍, 畑地荒蕪地に極めて普通の雑草である。又ここに記録されたホソバノラカザについてはいろいろの解釈があつて諸家の説が一致しないのであるが, 牧野先生の見解にしたがつてシロアカザの変種と考えた。この植物は当地域に於ては主に海岸の砂地に生える。

275. *C. ficifolium* Smith コアカザ

標本産地：陸中；盛岡（菊地, 1963, 1964）。

一般分布地域：日本（北海道, 本州, 四国, 九州）, 欧州, シベリア西部。

記事：前種と共に人家附近に生える。日本のものは欧州からの帰化と考えられている。シロアカザと混生することがあるが, 開花期が早いので容易に区別される。

276. *C. ambrosides* Linnaeus ケアソタソウ

標本産地：陸前；金華山島（菊地, 1965）。陸中；小本（菊地, 1961）, 盛岡（菊地, 1965）。

一般分布地域：日本（本州, 四国, 九州）に帰化。

記事：中米の原産であるが日本の各地に点々と帰化して生えている。又近時鉄道沿線の所々にゴウシュウアリタソウ（*C. carinatum* R. Brown）が帰化している。

277. *Atriplex subcordata* Kitagawa ハマアカザ

標本産地：陸前；高田松原（菊地, 1935）, 長部（菊地, 1935）, 志津川町椿島（菊地, 1956）, 岩井崎（菊地, 1956）, 女川（菊地, 1965）, 広田（菊地, 1954）。陸中；種市（菊地, 1950）, 津軽石（菊地, 1958）, 野田菊地, 1961）, 金浜（菊地, 1962）。**陸奥；**種差（菊地, 1954）。

一般分布地域：日本（北海道, 本州）, 樺太, 千島。

記事：海岸の砂浜で稍湿気の多いところや塩沼池畔に生える。次種ホソバノハマアカザと混生することがあるが, 葉や果実の形の外に花期が早いので区別される。

278. *A. Gmelini* C. A. Meyer ホソバノハマアカザ

標本産地：陸前；女川（菊地, 1956）, 岩井崎（菊地, 1956）, 鹿折（菊地, 1933）, 雄勝（菊地, 1961）。陸中；津軽石（菊地, 1946）, 船越（菊地, 1957）, 大浦（菊地, 1961）, 金浜（菊地, 1962）。

一般分布地域：日本（本州, 四国, 九州, 北海道）, 朝鮮, 中国北部, 蒙古, 千島, 樺太, カムチャッカ, アラ

スカ、北米太平洋岸。

記事：海浜の稍湿潤地に点々と生えている。前種より開花期がおそく多くの生育地に於て9月に入って花を開き10月に成熟に達する。

279. *Salicornia europaea* Linnaeus アツケンソウ

標本産地：陸前；岩井崎（菊地，1956）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国），朝鮮，そのほか，北半球に広く分布。

記事：海岸の塩沼湿地に生える。岩井崎は本地域に於ける唯一の産地で旧塩田跡の湿地の一部に極めて僅かに生えている。本州では岩井崎以外の産地はいまだ知られていない。四国では愛媛県と香川県に産地が知れる。

280. *Suaeda maritima* (LINN.) Dumortier ハママツナ

標本産地：陸前；女川（菊地，1956），岩井崎（菊地，1956，1957），雄勝（菊地，1961），鹿折（菊地，1933）。

一般分布地域：日本（陸前以南の本州，四国，九州），琉球，台湾，朝鮮，満州，中国，マレーシア，オーストラリア，その他，北半球に広く分布。

記事：海浜の塩沼湿地に生える。南方系の植物で本地域は分布の北限に当り，鹿折は現在までに知られた北限産地である。花期はおそく凡そ10月に入って果実が成熟に達する。

281. *Salsola Komarovii* Iljin オカヒジキ

標本産地：陸前；広田（菊地，1955；千田貞蔵，1948）。陸中；金浜（菊地，1662），久慈（菊地，1952），種市（菊地，1950），宮古（菊地，1946），津軽石（菊地，1951），田老（菊地，1655）。陸奥；鮫（菊地，1961），種差（菊地，1963）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），朝鮮，樺太，中国，ウズリー。

記事：全域の海浜砂地に極めて普通に生育している。若苗は食用となる。これに似て葉の先が剛針状となり，果萼片の背面が広い翼となるハリヒジキ（*S. ruthenica* Iljin）が釜石市小佐野川原の砂地に帰化している（小水内長太郎，1953）。青森県北端の海浜に野生しているものもおそらく帰化品であると思われる。

AMARANTHACEAE ヒユ科

282. *Amaranthus lividus* Linnaeus イヌビユ

標本産地：陸中；盛岡（菊地，1947），谷内（吉田長次郎，1919）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州）。世界各地に広く分布。

記事：各地の人家付近，畑地の雑草として生える。原産地は不明であるが，一説では欧州原産と考えられる。若苗は食用となる。山形県の小国地方ではオトコヒョウの方言で知られ，広く食田に供される。

283. *A. patuius* Bertcloni ホソアオゲイトウ，アオビユ

標本産地：陸中；盛岡（菊地，1961）。

一般分布地域：日本（本州，四国，九州）に帰化。熱帯アメリカの原産で広く，世界の各地に伝播。

記事：各地に点々と生える。若苗は食用とすることができる。尚その他に本地域に帰化生育する同属の植物にはホナガイヌビユ（*A. viridis* Linn.），アオゲイトウ（*A. retroflexus* Linn.）などがあり，いずれも若苗は食用となる。

284. *Achyranthus japonica* (Miq.) Nakai ヒカゲイノコズチ，イノコズチ

標本産地：陸前；女川（菊地，1993），志津川町椿島（菊地，1956），広田（菊地，1936）。陸中；宮古市田代（菊地，1965），軽米（菊地，1956），岩泉（菊地，1958），笹野田峠（菊地，1959），国見山（菊地，1959），室根山（菊地，1951），久慈（菊地，1956）。陸奥；福岡（菊地，1963）。

一般分布地域：日本（北海道西南部，本州，四国，九州）。

記事：日本の固有種。久しく次種と混同されていたが先年奥山春季氏の研究によって明確に区別されるようになった*。葉はやや細形で，よりうすく，一般に毛が少なく果序が長く伸長すること，又根はほとんど肥厚しないこと，小苞基部の付属体や仮雄蕊の形が異なることなどの特徴によって次種と区別される。一般に林内或は沢筋に沿う陰湿地に生える。

285. *A. Fauriei* Lévillé et Vaniot ヒナタイノコズチ

標本産地：陸前；白浜（菊地，1956）。陸中；十二箇（吉田長次郎，1919）。藤沢（菊地，1930），盛岡（菊地，1961）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），中国。

記事：前種と極めて似た植物であるが，生育の場所を異にし，一般に路傍や人家付近，畑の周辺など比較的陽地に生えるのでこの和名がつけられた。

PHYTOLACCACEAE ヤマゴボウ科

286. *Phytolacca esculenta* van Houtte ヤマゴボウ

標本産地：陸前；金華山島（菊地，1963），広田（戸羽親雄，1953）。陸中；盛岡（盛岡，1967）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），中国，琉球，台湾。

記事：人家付近の林内に生え，又稀に栽培されている。日本産のものは古い時代に中国から薬用の為に移入されたものに起因すると考えられる。幼茎及び若葉は食用となる。花の淡紅色のものが，金華山島の一部に生えているが，この型のは既に牧野先生によって注意されているが（牧野：アカバナヤマゴボウ。我が思い出—遺稿—p.108, 1958）いまだ正式の発表がないので記載しておくことにする**。尚近頃北米原産のヨウシュヤマゴボウ（*P. americana* Linn.）が本地域の所々に帰化している。

AIZOACEAE ツルナ科

287. *Tetragonia tetragonoides* (Pall) O. Kuntze ツルナ

標本産地：陸前；網地島（菊地，1960）。陸中；種市（菊地，1950），鶯住居（小水内長太郎，1954）。

一般分布地域：日本（北海道西南部，本州，四国，九州），中国，東南アジア，オーストラリア，南アメリカ。

記事：海岸の砂地の所々に生えているが稀である。時に野菜として栽培されることがある。

288. *Mollugo pentaphylla* Linnaeu ザクロソウ

標本産地：陸中；盛岡（菊地，1961）。

* 奥山春季：いのこづちトひなたいのこづち。植物研究雑誌10, p.261 (1934)。

** *Phytolacca esculenta* van Houtte form. *rubriflora* M. Kikuchi, form. nov.—Flores Rubidi, ceterum ut in typo. Hab. in Rikuzen, Insul. Kinkazan (leg. M. Kikuchi, anno 1965, typus in IUH.)

一般分布地域：日本（本州，四国，九州），中国，朝鮮，マレー半島，インド。

記事：路傍や畑の雑草で夏秋の頃繁るが，当地域では稀に見られる。尚北米原産のクルマバザクロノウ (*M. verticillata* Linn.) が時として帰化することがあるが，生育が永続しないことが多い（種市駅付近——菊地，1950）。

PORTULACEAE スペリヒユ科

289. *Portulaca oleracea* Linnaeus スペリヒユ

標本産地：陸中；盛岡（菊地，1960），宮古（菊地，1950）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州）。全世界の温帯から熱帯に広く分布。

記事：極めて普通の雑草で畑や路傍に生える。夏から秋にしげる。食用野草として利用することがあり，山形県小国地方ではオナゴヒョウの方言で知られ煮て乾燥貯蔵し，冬季に調理して食べる。

CARYOPHYLLACEAE ナデシコ科

290. *Spergula arvensis* Linnaeus ノハラツメクサ

標本産地：陸中；外山（菊地，1960）。

一般分布地域：日本（本州，北海道）に帰化，欧州の原産。

記事：玉山村外山地方に，岩洞ダム建設工事に関連して工事跡地に帰化したことがある。種子に乳頭突起があるが，茎や葉に腺毛の稍明瞭な型である。

291. *Spergularia rubra* (Linn.) Presl ウスベニツメクサ

標本産地：陸中；宮古市金浜（菊地1962）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北部）。北半球の温帯北部，亜寒帯一帯。

記事：海岸の湿れる砂地に生える。上記の産地は本地域唯一の確認された産地である。

292. *S. marina* (Linn.) Grisebach ウシオツメクサ

標本産地：陸前；岩井崎旧塩田（菊地，1956），高田松原（菊地，1936），大船渡（菊地，1954）。陸中；津軽石（菊地，1957），金浜（菊地，1962）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，九州北部），樺太，朝鮮，満州，一北半球の温帯北部，亜寒帯海岸一般。

記事：海岸の特に河口の付近の塩沼湿地に好んで生える。前種とは花が白色（前種は淡紅色）であること，托葉が合生することなどの点で区別される。本地域に於ては他の産地として陸中大槌町安渡川河口付近の記録がある（笹村祥二：岩手県沿岸帯植物誌p. 6, 1950）。

293. *Sagina japonica* (Sw.) Ohwi ツメクサ

標本産地：陸前；碓石浜（菊地，1961），広田（戸羽親雄，1954），金華山島（菊地，1963）。陸中；藤沢（菊地，1930），区界（菅谷保之，1958），盛岡（菊地，1966）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），樺太，南千島，中国，朝鮮，台湾，インド。

記事：畑や人家付近，路傍，低山地の林下などに普通に生える。

294. *S. maxima* A. Gray ハマツメクサ

標本産地：陸前；志津川町荒島（菊地，1959），網地島（菊地，1960），女川町江の島（石塚和雄，1960），広田

(菊地, 1949; 千田貞蔵, 1948; 戸羽親雄, 1954), 高田松原(菊地, 1959), 大船渡(菊地, 1954), 志津川町椿島(菊地, 1956), 碁石浜(菊地, 1961), 泊海岸(菊地, 1961), 金華山島(菊地, 1961), 長面(菊地, 1962), 浦宿(菊地, 1963), 青松島(菊地, 1953), 寄磯(菊地, 1963), 唐桑町御崎(菊地, 1961)。陸中; 野田(小水内正明, 1960), 津軽石(菊地, 1949), 中野(菊地, 1959), 尾崎半島(菊地, 1954), 小本(菊地, 1949), 小谷島(菊地, 1961), 両石(菊地, 1961), 金浜(菊地, 1962), 種市(菊地, 1960)。陸奥; 種差(菊地, 1952, 1957, 1961), 鮫(菊地, 1954)。

一般分布地域: 日本(北海道, 本州, 四国, 九州), 樺太, 千島, 琉球, 台湾, 中国, 朝鮮, カムチャッカ, アリューシャン, アラスカ, 北米西海岸。

記事: 海岸の岩の割目時に砂地に生える。全域に普通分布する。前種に類似した植物であるが、一般により多肉型、花も果実もより大きく、種子の表面が平滑であるか、又は低平の乳頭突起があることで区別される(前種では明らかな細かい乳頭突起がある)。稀に花梗や萼に毛のない *forma crassicaulis*(wats.) Mizushima キタノハマツメクサ, エゾハマツメクサが、本地域北方海岸の一部に生える(種市海岸—菊地, 1952; 野田海岸—菊地, 1961)。尚この類についての分類学的見解の経緯については大井*, 水島**両氏の論文に詳しい。

295. *Honkenya Peplodes* (Linn.) Ehrh. var. *major* Hooker ハマハコベ

標本産地: 陸中; 種市(菊地, 1950), 船越大島(菊地, 1949), 普代(菊地, 1953), 田老(菊地, 1955), 姉吉(菊地, 1962)。陸奥; 種差(菊地, 1955), 鮫(菊地, 1957)。

一般分布地域: 日本(北海道, 本州北部), 樺太, 千島, 朝鮮, カムチャッカ, アラスカ南部, アリューシャン北米海岸。

記事: 海岸の湿れる砂礫地に点々と生える北方植物で、種としては北半球の温帯北部から寒帯にわたり海岸地域に広く分布する。船越大島は太平洋岸に於ける南限分布地である。東亜に分布する型は基準型に比べ大きく発育した茎及び花序をもち、葉は寧ろ狭いとされる(Hultén, 1943)。

296. *Minuartia verna* (Linn.) Hiern. var. *japonica* Hara コバノツメクサ, ホソバツメクサ

標本産地: 陸中; 早池峯山(菊地, 1946, 1959; 吉田長次郎, 1919; 笹村祥二, 1932)。

一般分布地域: 日本(本州北中部, 北海道)。母種 var. *verna* は北半球の寒帯, 亜寒帯及び高山に広く分布。

記事: 東北地方は早池峯山のみ分布する。同山の南斜面一帯の岩石地裸地に比較的普通に生育している。広義には *M. rubella* Graben の学名を採用することができるが***, ここでは日本の諸学者の説に従って上記の学名を使用することにした。

297. *Arenaria serpyllifolia* Linnaeus ノミノツヅリ

標本産地: 陸前; 永上山(斎藤純, 1953)。陸中; 国見山(菊地, 1959)。

一般分布地域: 日本(北海道, 本州, 四国, 九州)。欧亜温帯一般, 現在は広く世界に伝播。

記事: 路傍, 畑地, 原野に極めて普通に生える。

298. *A. Katoana* Makino カトウハコベ

標本産地: 陸中; 早池峯山(菊地, 1959)。

* 大井次三郎: 植物分類地理 11—4, p.251 (1942)。

** M. Mizushima: Journ. Jap. Bot. 35—11, p.335(1960)。

*** 菊地政雄・小水内長太郎: 陸中早池峯連峯の植物 p.21 (1961)。

一般分布地域：日本（北海道夕張岳，トツタベツ岳，本州早池峯山及び至仏山）。

記事：日本の固有種。本地域に於ては早池峯山の高山帯の岩礫地に稀に産する。

299. *Moehringia trinervia* (Linn.) Clairville タチハコベ

標本産地：陸前；柳津虎空蔵尊境内（菊地，1964），永上山（菊地，1958），上有住（菊地，1953），矢作（菊地，1954），今泉（菊地，1935）。五葉山（菊地，1953），下有住（菊地，1953）。陸中；黒森山（菊地，1963），大槌（菊地，1964），葛巻（菊地，1953），狛鼻溪（菊地，1954），山根（菊地，1956），盛岡（菊地，1959）。仙人峠（菊地，1954），早池峯山（菊地，1947），藤沢（菊地，1954），遠島山（菊地，1953），赤沢（菊地，1956）。陸奥；階上岳（菊地，1960），仁佐平（菊地，1954），名久井岳（菊地，1964）。

一般分布地域：日本（北海道西南郡，本州，四国，九州），欧州，シベリア西部，台湾。

記事：全域の低山地林内に生えるが稍稀である。東北地方では太平洋側に偏した分布を示し，日本海側からは確実な産地は，いまだ知られていない。

300. *M. lateriflora* (Linn.) Fenzl オオヤマフスマ，ヒメタガンデソウ

標本産地：陸前；今泉（斎藤純，1953），高田松原（千葉高雄，1959），広田（戸羽親雄，1954），金華山島（菊地，1965）。陸中；達曾部（千葉高雄，1953），国見山（菊地・寺方繁男，1959），区界（菊地，1958），外山（菊地，1959），大槌（菊地，1964），藤沢（菊地，1964），仙人峠（小水内正明，1957）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），北半球の温帯一般。

記事：全域の路傍，草地などに生える。

301. *Pseudostellaria japonica* (Korsh.) Pax ナンブワチガイ

標本産地：陸前；永上山（菊地，1936），五葉山（菊地，1954），鮎川（菊地，1966），金華山島（菊地，1962）。

陸中；多々良山（菊地，1964），白見山（菊地，1963），達曾部（大森鉄雄，1960），室根山（菊地，1961），遠野（小水内長太郎，1953），赤沢（菊地，1958），箱石（菊地，1953），姫神山（染谷徳五郎，1902），六角牛山（小水内長太郎，1952），外山（菊地，1950），仙人峠（菊地，1949；小水内正明，1955），久慈（中村心一，1951），区界（菊地，1945），大野（菊地，1954），山根（菊地，1959），砥森山（菊地，1960），狛鼻溪（菊地，1953）。

一般分布地域：日本（本州北部），満州。

記事：本種は東亜の残存種と認むべきもので満州と日本に隔離分布する。日本に於ては北上山地に集中的分布を示し，他に於ては僅かに阿武隈山系中の大滝根山及び移ヶ岳に産するのみである。

302. *P. heterophylla* (Miq.) Pax ワダソウ

標本産地：陸前；上有住（菊地・斎藤純，1953），長部（菊地，1935）。陸中；釜石市甲子（藤巻惇，1948），藤沢町本郷（岡本忠一，1954）。

一般分布地域：日本（本州，九州），朝鮮，中国。

記事：本地域に於ては極めて稀に見い出される植物で，低山地の林内に生える。東北地方の日本海側には分布していないようであり，大槌地方は本種の北限分布地と考えられる。笹村祥二氏は尚米崎，大槌を産地として記録されている（笹村：岩手県沿岸帯植物誌 p.36, 1950；ヒメワダソウ *P. koidzumiana* Ohwi の名の下に）。

303. *P. sylvatica* (Maxim.) Rax クシロワチガイ

標本産地：陸中；遠島山（中村心一，1951；菊地，1953，1954），界ノ神岳（三上信夫，1950），害高森（畠山茂雄，1966）。

一般分布地域：日本（本州，北海道），東シベリア，朝鮮，中国（変種）。

記事：本種も稀産の植物で日本では北海道の東部山地，本州の陸中及び下野に少数の産地が知られているのみである。陸中に於ては現在上記の3産地が知られる（村井三郎氏による大川の記録は具体的には界ノ神岳を指すものであろう—岩手県基準帯植物目録p.29, 1935）のみである。何れも花崗岩の崩壊土壌よりなる林の下の岩石地又は草地で海拔1,000m内外の高所に生育し個体数は少ない。尚本属（*Pseudostellaria*）の植物は少なくとも日本に於ては隔離分布性を示し，且つ生活力の衰えた状態を示すもので比較的古い起原の植物と考えられる（これとは反対の見解もある。正宗敬敏：植物地理学新考 p. 98, 1956）。本属の分類及び分布に関しては脚註にあげた諸文献に詳しい*。

304. *Cerastium holosteoides* Fries var. *hallaisanense* (Nakai) Mizushima ミミナグサ

標本産地：陸前；金華山島（菊地，1963，1965），米崎（菊地，1964），矢作（吉田長次郎，1914；菊地，1964）。陸中；区界（菅谷保之，1958），小国（菊地，1959），盛岡（菊地，1958，1952），種市（中村心一，1957），大籠（菊地，1964），狹鼻溪（佐々木洋一，1954），仙人峠（小水内正明，1957）。陸奥；名久井岳（菊地，1964）。

一般分布地域：日本（北海道；本州，四国，九州），朝鮮，中国，台湾，インド。

var. *holosteoides* オオミミナグサ

標本産地：陸中；大槌（菊地，1964），区界（菅谷保之，1958），中野海岸（菊地，1959）。盛岡市東中野（菊地，1958），土沢（菊地，1960），平庭岳（菊地，1959）。陸奥；種差（菊地，1957）。

一般分布地域：日本（北海道；本州北部），欧州シベリア，北朝鮮，樺太。

記事：ミミナグサは低山地，平地特に農耕地，路傍の雑草である。母種にあたるオオミミナグサは花期はよりおそく，より大きく発育し，花もより大きく，萼片の長さが5.5～6mm（ミミナグサでは4～5mm内外）であることによって区別されるが，時に中間形で連続される。本地域の中部以北の海岸草地には稀ならず見出されるものである。

305. *C. fisherianum* Seringe オオバナミミナグサ

標本産地：陸奥；種差海岸（菊地，1952）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北部，九州北部），カムチャッカ，樺太，千島，オホーツク沿岸地方，北朝鮮。

記事：海岸の岩石地又は草地に生える植物で，東北地方では，日本海岸は男鹿半島以北，太平洋岸では種差海岸以北に見られ，それより南の産地は知られていない。

306. *C. glomratum* Thuillier オランダミミナグサ

標本産地：陸前；大船渡（菊地，1961），広田（戸羽親雄，1953）。陸中；大籠（菊地，1964），盛岡（菊地，1967）。

一般分布地域：欧州原産，日本に帰化。

* 1) 岡本平八：栃木県植物の粹，植研 10—1，p.56 (1935)。

2) J. Ohwi: A revision of the genus *Pseudostellaria* in Jap. Jour. Bot. 9—1, p.95 (1937)。

3) M. Mizushima: The genus *Pseudostellaria* Pax in Japan.—Bull. Surv. Inida 7—1, p.62 (1965)。

記事：岩手県の中南部所々，畑地，路傍などに生える。ミミナグサに似たもので往々混同されているが，花梗が短かく（萼片とほぼ同長），全体に帯褐色の毛が多く又腺毛が多いので区別される。

307. *Stellaria aquatica* (Linn.) Scopol ウシハコベ

標本産地：陸中；大槌町根浜（伊藤敬太郎，1964），仙人峠（小水内正明，1957），盛岡（菊地，1966），川内（畠山茂雄，1966）。

一般分布地域：日本（北海道；本州，四国，九州），欧亜大陸及び北アフリカ，北米（帰化）。

記事：低山地及び農耕地，路傍の雑草で到る処に生える。花柱が5個であることなど（*Stellaria* では通常3個）の特徴によって別属（*Malachium*）として取り扱われることがある。

308. *S. sessiliflora* Yabe ミヤマハコベ

標本産地：陸前；矢作町二又（菊地，1954），金華山島（菊地，1956,1961），女川（菊地，1963），雄勝（菊地，1962），種山ヶ原（菊地，1958）。陸中；江刺家（菊地，1959），不動岩（菊地，1966），川井村小国（菊地，1959），早池峯山麓（菊地，1960），門崎（菊地，1958），赤沢（菊地，1958，1964），岩谷堂（菊地，1956），藤沢（菊地，1954），猊鼻溪（菊地，1953），外山（菊地，1953），大槌町金沢（菊地，1964）。陸奥；名久井岳（菊地，1958）。

一般分布地域：日本（北海道西南部，本州，四国，九州）。

記事：日本の固有種。低山地の疎林下の陰地に生えるが，比較的稀な植物である。花は5月に開く，夏秋の型は地面をはって蔓状に伸び，しばしば短い柄のある閉鎖花をつける。又時としてサワハコベと混同されることがあるが，葉の表面に伏毛のないこと及び茎や花柄に左右交互に1条の縮毛線のあることなどではっきり区別される。

309. *S. diversiflora* Maximowicz サワハコベ，ツルハコベ

標本産地：陸前；五葉山（菊地，1961）。陸中；区界（菊地，1948；菅谷保之，1958），猿沢（菊地，1948）。

一般分布地域：日本（本州，四国，九州）。

記事：日本の固有種。低山地からブナ帯までの樹陰に生える。奥羽山系に於いては，比較的普通に見られるものであるが，本山系に於いては非常に稀に見られる植物で，確認された産地は上記の3産地のみである。この植物については従来ツルハコベ（*S. diandra* Maxim.）との関係に於て，いろいろ疑問の点があったが，水島正美氏の研究によって明確にされた*。彼の研究によれば，ツルハコベは本種の夏秋の型であって独立の分類群ではない。茎には決して毛線がないこと，葉の表面に多細胞性の伏毛が，まばらに生えていることなどは，よい特徴として，他の類似種例えば，ミヤマハコベなどから区別される。北陸及び北地産の型は，しばしば大形の葉をつけ，時に，var. *robusta* Okuyama（オオサワハコベ）として区別されることがある。

310. *S. media* (Linn.) Villariz コハコベ

標本産地：陸前；高田市長部（菊地，1934），金葉山島（菊地1963）。陸中；盛岡（菊地，1966；藤巻淳，1952）。

一般分布地域：世界の広汎分布種，日本全域に伝播。

記事：旧世界の原産といわれるが，いまでは熱帯及び極地を除き世界全般に広がっている。農耕地，路傍，牧草地など人間の居住域に関連ある場所の雑草である。日本にはかなり古く帰化したものらしいが，次種と区別されないままで，一般にハコベと呼ばれて来たものであるが，その差異に初めて注意されたのは牧野先生

* M. Mizushima : On *Stellaria diversiflora* Maxim. and its allies. Jour. Jap. Bot. 26, 1, p. 1 (1951).

の慧眼によるもので、初め *S. media* var. *minor* Makino (1926) の名で記載された。しかし現在は、その後の大井次郎氏の見解(植物分類地理, 11, p.250, 1942)にしたがって *S. media* そのものであると考えられるようになっている。次種にくらべ、全体小形、葉も小さく、茎は多くは紫褐色を帯び、雄蕊の数が減数して2-5個が普通である。

311. *S. neglecta* Weihe ミドリハコベ

標本産地：陸前；金華山島(菊地, 1966, 1961), 雄勝(菊地, 1962)。陸中；大槌(菊地, 1964), 猊鼻溪(菊地・藤巻, 1953), 盛岡(菊地, 1964), 赤沢(力石紀子, 1964)。

一般分布地域：日本(北海道, 本州, 四国, 九州), 欧州, アジア。

記事：前種と混同されていたが、牧野, 大井氏等の注意深い観察によって区別されるようになった(前出の文献)。低山地の半陰地などに見られることが普通で、農耕地には稀である。全体が大形で多くは茎が緑色、雄蕊の数も多く普通8~10個であるが、盛花期を過ぎ、枝の先端に近く、おくれて咲く花などは5~6個に減数するものがある。本来は日本に野生のものであるが、コハコベの繁栄によって、農耕地から次第にしめ出されるようになったものであると思われる。

311. *S. Fenzlii* Regel シラオイハコベ, エゾフスマ

標本産地：陸前；五葉山(菊地, 1954)。

一般分布地域：日本(北海道, 本州北中部), カムチャッカ, 樺太, 千島, アムール。

記事：本地域では上記の産地の他、岩泉町岩の渡が記録されている(青森営林局：岩手県基準準植物目録p.29, 1934)。五葉山では上有住側檜山口登山路に沿う道端の下部(海拔凡そ900m, ヒノキアスナロ林下)に見られる。岩手県では、ほかに岩手山の高山帯の一部に知られているのみである。一般には亜高山帯性の植物と見られるが、時として低山地の風穴地帯に生えることがある(例：岩代国, 田島町, 萩野風穴一小林勝氏採集1965)。

313. *S. alsine* Grimm var. *undulata* (Thunb.) Ohwi ノミノフスマ

標本産地：陸前；金華山島(菊地, 1963), 永上山麓(斎藤純, 1953), 高田松原(千葉高雄, 1959), 広田(戸羽親雄, 1954), 唐丹(藤巻淳, 1950)。陸中；赤沢(力石紀子, 1964), 千晩山(藤巻淳, 1950), 藤沢(菊地, 1930), 盛岡(菊地, 1958; 千田貞蔵, 1948; 力石紀子, 1965)。陸奥；中山峠(菊地, 1958)。

一般分布地域：日本(北海道, 本州, 四国, 九州), 中国, 朝鮮一母種(*S. alsine* Grimm)は花卉はより小形、花柱はより長く北半球の温帯に分布。

記事：一般に農耕地、路傍の雑草であるが、又、山地の湿地、溪側にも生える。山地性のもは稍葉が長形になる傾向がある。従来東北地方に分布すると記録されたナガバツメクサ *S. longifolia* Muhl. (村松：秋田県植物誌 p.32, 1932。平沢, 八森, 五里合, 羽立北野一極普)は、このような山地型であろうと思われる。しかし、確実に後者に同定されるべき標本は青森県三沢市古間木の林下から見い出されている(菊地, 1960)から、東北地方の北部に真正のナガバツメクサが分布していることはたしかである。

314. *S. monosperma* Hamilt. var. *japonica* Maximowicz オオヤマハコベ

標本産地：陸前；五葉山(菊地, 1961)。陸中；釜石市尾崎(菊地, 1954)。

一般分布地域：日本(本州, 四国, 九州), 一母種(*S. monosperma* Hamilt.)はインドシナ, 中国, インド, アフガニスタンに分布。

記事：従来、日本固有種(*S. paniculigera* Makino)とも考えられてきているが、ここでは水島氏の説* にし

* M. Mizushima: Notes on *Stellaria* in E. Asia. Jour. Jap. Bot. 32, p.249 (1957).

たがって上記の学名を採用した。種 (*Species*) の分布圏から見ると近來提唱のヒマラヤー日本要素の1つと考えることができる。本州に於ける北限は大平洋側では陸中、日本海側では越前である(水島氏, 1957)。笹村詳二氏は上記産地のほか、釜石及び大槌の2産地を記録している。(笹村: 岩手県沿岸帯植物誌 p.37, 1950)。それ故大槌はこの種の太平洋側に於ける事実上の北限ということになる。東北地方では稀産種であって、福島県には記録されているが(八溝山, 甲子温泉, 西白河郡関山など。小林・鈴木: 福島県植物誌其三 p.35, 1954)、宮城県からは確実な産地はいまだ知られないようである。低山地から(ブナ帯までの林下の陰地に生える。

315. *Dianthus japonicus* Thunberg ハマナデシコ, フジナデシコ

標本産地: 陸前; 網地島(菊地, 1960), 女川町浦宿(菊地, 1956), 金華山島(菊地, 1963), 広田(菊地, 1949, 1955, 1961); 戸羽親雄, 1953)。

一般分布地域: 日本(本州, 四国, 九州), 琉球, 中国。

記事: 暖帯海岸性の植物で, 太平洋岸に於ける北限は本地域の陸前高田市広田町沿海岸である。それから北の真の野生は知られていない。宮古市日出島の記録(福田: 陸中日出島の植物について, 1935)はエゾカワラナデシコの広葉型の誤記録と思われる。しばしば観賞用として栽培されている。

316. *D. superbus* Linnaeus エゾカワラナデシコ

標本産地: 陸前; 寄機(菊地, 1963), 広田(戸羽親雄, 1953)。陸中; 岩泉町欠山(菊地, 1953, 1957), 宇霊羅山(菊地, 1955), 浄土ヶ浜(菊地, 1951), 普代(菊地, 1953), 中野海岸(菊地, 1959), 玉ノ脇(菊地 1952), 元村(菊地政文, 1957), 田野畑(菊地, 1953), 大川目(菊地, 1952), 岩泉町大平(菊地, 1957), 達曾部(小水内長太郎, 1957), 岩泉町落合(菊地, 1960)。陸奥; 馬仙峽(伊藤敬太郎, 1963), 名久井岳(菊地, 1964)。

一般分布地域: 日本(北海道, 本州北中部の山地), 欧州, シベリア, 満州, 樺太。

var. *speciosus* Reichenbach タカネナデシコ

標本産地: 陸中; 早池峯山(吉田長次郎, 1918; 小水内長太郎, 1948; 鎌田信昭, 1961; 菊地, 1959)。

一般分布地域: 日本(本州北中部高山, 北海道), 樺太, 朝鮮, 欧州, シベリア。

var. *longicalycinus* (Maxim.) Williams カワラナデシコ, ナデシコ

標本産地: 陸前; 広田(戸羽親雄, 1953), 米崎(菊地, 1934), 高田松原(菊地, 1935), 五葉山麓(菊地, 1954)。陸中; 仙人峠(小水内正明, 1957), 軽米(佐藤詔子, 1961), 室根山(菊地, 1951), 和賀展勝地(及川浩志, 1954), 宮古(菊地, 1956)。陸奥; 福岡(菊地, 1957)階上岳(清川保之, 1963)。

一般分布地域: 日本(本州, 四国, 九州), 朝鮮, 中国, 台湾。

記事: カワラナデシコの一群は, 種 (*Species*) は1つであるという点についてのみは異論はないが, 非常に変化に富み, 種内の変異についての位置づけの点ではいまだ定説をえない現状である。主に萼筒の長さ, 苞の数, 葉の巾と長さ, 粉白であるかどうか, 花卉の大きさや, きれこみの状態, その内面基部の毛の多少などに着目して, 種内にいくつかの変種(亜種説もある), 品種などが記載されているが, 何れの形質も中間型の存在によって明白な区別がむずかしい。基準型は萼筒がより短かく(凡そ2—3cm), 花は淡紅色, 苞は2対のもので, 葉は一般に狭葉粉白型(多くは2—6mm)で欧亜大陸から樺太, 北海道, 本州北中部山地及び海岸に分布し, エゾカワラナデシコと呼ばれる。但し, 葉の粉白色の形質はいろいろの程度の変化があり, 若葉のときのみ粉白色で, 成葉に於ては淡緑色になるものがあり, 標本作成時の条件によって消失し, 標本上に残らない場合, 長期の貯蔵によって消失する場合もあり, 同じ集団中に粉白にならない個体も存在

するのであるから副次的特徴としてのみ認め得るものである。苞の数も多数の個体について観察すると、常態としては2対であるが、同じ個体につく花についても稀に3対のものがあつたりして絶対的なものではない。これはこの種の集散花序的な習性に関連して、しばしば総苞となるべき筈のものが苞の構成に参加するためにおこるもので、原則的には2対が定型と思われる。エゾカワラナデシコの高山型が、タカネナデシコであるが、叢生し、植物体全体がより小さく、葉はより細く長い。海岸や山地の岩上にはその中間型があつて、花期もより早く漸次タカネナデシコに移行するものと思われる。次に本州、四国、九州の平地、低山地、川原などに生える普通のカワラナデシコであるが、萼筒がより長く（凡そ2.5~4 cm）、苞が3~4対のものを常型とする。これにもエゾカワラナデシコとの中間型が存在し、何れとも決定困難な形に出逢うことがある。苞の4対（時に3対の場合に於ても）の場合には明らかに総苞となるべき運命のものが、側生花の未発達のために苞の下位に密接して存在していると解するのが合理的であるように見える。エゾカワラナデシコの広葉型（葉巾凡そ6~10mm）をヒロハカワラナデシコ *D. superbus* Linn. form. *latifolius* (Nakai) M. Kikuchi* として一応区別することができる。樺太、北海道、本州北部海岸に知られ、しばしば葉は粉白色を呈する。本地域内にも海岸の岩上に見られる一陸前；唐丹（藤巻淳，1950）、広田（千田貞蔵，1948）、寄磯（菊地，1963）、大船渡（菊地，1953）、志津川町椿島（菊地，1956）、碓石浜（菊地，1957）、陸中；日出島（菊地，1961）、田野畑（菊地，1949，1953）、普代（菊地，1953）。陸奥；種差（菊地，1952）。一又、カワラナデシコで花期がおそく（9月下旬）、草体が大きく、葉の巾が甚だ広い型（10~16mm）が金華山島西側断崖上に見い出された。この型を新品種ヒロハナデシコ (*D. s. l. form. latissimus* M. Kikuchi**) として記載しておくことにする。

317. *Cucubalus baccifer* Linnaeus ナンバンハコベ

標本産地：陸前；今泉（菊地，1933）、種山ヶ原（菊地，1958）。陸中；軽米（菊地，1956）、宮古市黒森山（菊地，1953）、区界（菅谷保之，1958）、谷内（吉田長次郎，1919）、室根山（菊地，1951）、種市（菊地，1952）、岩泉町大川（菊地，1954）、宮古（菊地，1962）。陸奥；馬仙峽（菊地，1964）、根反（菊地，1966）。

一般分布地域：日本（北海道、本州、四国、九州）、朝鮮、樺太、南千島、欧州、シベリア、満州、中国、台湾ヒマラヤ。

記事：低山地に広く分布するが散在的で各地に点々と生える。世界的に見てかなり広い地域にわたって分布しているが、変異の程度は明確でない。日本及び近隣諸国の型は、var. *japonicus* Miq. として区別されることがあるが、コマロフ氏の見解（1903）によれば、この区別は不要である。

318. *Lychinis gracillima* (Rohrb.) Makino センジュガンビ

標本産地：陸前；氷上山（菊地，1958，1933）、立根（井上幸三，1962）、五葉山（菊地，1935，1954，1961）。陸中；薬師ヶ岳（菊地，1959）、早池峯山（菊地，1956）、千晩山（藤巻淳，1950）、白見山（菊地，1963）、仙人峠（小水内正明，1957）、山田町荒川（菊地，1961）、堺の神岳（菊地，1954）、六角牛山（菊地，1948）、田野畑（菊地，1953）、片葉山（小水内長太郎，1935）。

一般分布地域：日本（本州北中部）。

記事：日本の固有種。中部以北の深山に生え、当地域ではしばしば、海岸近くの林内にも見い出されることがあるが、そうざらにある植物ではない。秋田県太平山産の型は、かなり葉の丸い型で、牧野先生が、かつて

* *Dianthus superbus* Linn. form. *latifolius* (Nakai) M. Kikuchi, comb. nov. = *D. superbus* Linn. var. *latifolius* Nakai in Bot. Mag. Tokyo, 43, p.457 (1929).

** *Dianthus superbus* Linn. var. *longicalycinus* Williams form. *latissimus* M. Kikuchi, form. nov. — *Planta gigantea*, culmi ca. 80cm alti, 4~5 mm in diametro. Folia latissima, 10~16 mm lata. Calycis tubus 2.2~3 cm longus. Hab. in Prov. Rikuzen, Insul. Kinkazan (leg. M. Kikuchi, anno 1962, typus in IUH.).

ヒロハンラネガン ビ *L. ugoensis* Makino (村松七郎：秋田県植物誌 p.31, 1932), の名を用意されたが正式の記載をされないままとなっている。たしかに、本州中部山岳及び北部の他の産地のものにくらべ、区別されるもので、独立種とすべきかどうかは別として、無視され得ない型であると思われる。

319. *L. Miqueliana* Rohrbach フシグロセンノウ

標本産地：陸前；氷上山（吉田長次郎, 1963）, 金華山島（菊地, 1956）, 女川（菊地, 1963）, 広田（戸羽親雄, 1953）。陸中；猿沢（菊地, 1960）, 鮎ヶ崎（菊地, 1960）, 門崎（菊地, 1959）, 区界（菊地・菅谷保之, 1958）, 浅岸（菊地, 1959）, 宮古市田代（菊地, 1965）, 大槌（菊地, 1964）, 猊鼻溪（佐々木洋一, 1954）, 不動岩（菊地, 1962）, 霞露岳（菊地, 1962）, 津谷川（山田秀実, 1913）, 早池峯山麓（染谷徳五郎, 1903）。

一般分布地域：日本（本州, 四国, 九州）。

記事：日本の固有種。低山地の林下に生える。北海道からは見出しされていないが、本州では北端の青森県まで分布している（秋田県からは未記録）。花が大きく、朱紅色で観賞価値があるので、しばしばオミナエシ、キキョウなどと共に採取されて生花用、供花用に供される。

320. *Melandryum firmum* (Sieb. et Zucc.) Rohrbach フシグロ

標本産地：陸前；大船渡（菊地, 1953）, 女川（菊地, 1956）, 金華山（菊地, 1956）, 今泉（菊地, 1935）。陸中；大野村帯島（穂積明, 1958）, 種市（菊地, 1950）, 葛巻（菊地, 1959）, 姫神山（菊地, 1960）, 国見山（菊地, 1959）, 大川目（菊地, 1958）, 谷内（吉田長次郎, 1920）, 大槌（伊藤敬太郎, 1964）, 猊鼻溪（菊地, 1954）, 釜石市小川（菊地, 1965）, 宮古市田代（菊地, 1963）, 藤沢（菊地, 1953）, 山形村関（菊地, 1958）。陸奥；福岡（菊地, 1963）, 名久井岳（菊地, 1963）。

一般分布地域：日本（北海道, 本州, 四国, 九州）, 琉球, 朝鮮, 中国, 満州, 東シベリア。

記事：低山地, 路傍などの砂礫地の傾面によく生える植物である。通常茎の下半部に長軟毛を散生し、葉縁には軟毛がある。茎や葉の表裏、茎の上部、花梗などに白色の軟毛をやや密に生ずる型をケフシグロ *M. firmum* form. *pubescens* (Makino) Makino と言い、母型に伴って所々に生えるが、稀なものである。但し、これには異見があり、其の脈上に細毛のある型をケフシグロとする意見もある（北村・村田；原色日本植物図鑑、離弁花類 p.295, 1961）。

付記：ナデシコ科の植物の中には沢山の園芸植物が栽培され、その中の数種は、しばしば野生状態となり、帰化植物となっているものがある。サボンソウ (*Saponaria officinalis* Linn.), ムシトリナデシコ (*Silene Armeria* Linn.), ムギナデシコ (*Agrostemma Githago* Linn. しばしば麦畑に生える), シラタマソウ (*Silene Cucubalus* Wibel.) などはその例である。

NYMPHAEACEAE スイレン科

321. *Brasenia Schreberi* J.F.Gmelin ジュンサイ

標本産地：陸中；藤沢（菊地, 1953）, 猿沢（菊地, 1957）。

一般分布地域：日本（北海道, 本州, 四国, 九州）, 東亜, インド, オーストラリア, 西アフリカ, 北米。

記事：各地池沼中に点々と見られるが、この植物の生えている池沼は比較的少ない。若い葉は食用となる。

322. *Nuphar japonicum* de Candolle コウホネ

標本産地：陸中；稲瀬（菊地・寺方, 1959）。

一般分布地域：日本（北海道西南部, 本州, 四国, 九州）, 朝鮮。

記事：所々の小川や池沼の縁部に群生するものであるが標本用として採集されないために、標本は少ない。

323. *Nymphaea tetragona* Georgi ヒツジグサ

標本産地：陸中；野田（菊地，1961），稲瀬（菊地・寺方，1959）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），欧州，シベリア，中国，インド北部。

記事：各地の池沼中に生える。葉や花の大きさは産地による変異があるように観察されるが、環境的なものであるかどうかは確かではない。エゾノヒツジグサ（var. *tetragona*）型のものもあるが、区別となる葉の裂片の長さの全葉長に対する比は、多少あいまいな点があるので、その点はいまだ正確に検討されないままである。

CERATOPHYLLACEAE マツモ科

324. *Ceratophyllum demersum* Linnaeus マツモ，キンギョモ

標本産地：陸前；高田市古川沼（菊地，1957）。陸中；盛岡市亀ヶ池（菊地，1956）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），全世界広汎分布。

記事：各地の池沼中に普通に見られる。

CERCIDIPHYLLACEAE カツラ科

325. *Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zuccarini カツラ

標本産地：陸前；五葉山（菊地，1953，1961），矢作（菊地，1935）。陸中；宮古（菊地，1963），不動岩（菊地，1962），安家（菊地，1958），仙人峠（小水内正明，1957），龍泉洞（菊地，1963），金沢（菊地，1964），大沢（菊地，1963），山根（菊地，1956），早池峯山（菊地，1950），山形村川井（菊地，1959），黒石（千田貞蔵，1947）。陸奥；福岡（菊地，1963）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），中国（変種）。

記事：主に低山地の谷沿いの地に生える。この植物の枝垂性の型をform. *pendula* (Miyoshi) Ohwi と言い、当地域内大迫町内川目の山林内に偶発したものが原木で、現在その子孫と伝えられるものが紫波郡都南村字乙部大萱生竜源寺に現存し、それより分植されたと伝えられる、盛岡市餌差小路の池野三次郎氏邸内にあるものと共に国の文化財として指定を受けている。現在は株分け及び接木によって増殖され、所々に栽培品を見るようになっている。

326. *C. magnificum* Nakai ヒロハカツラ

標本産地：陸中；早池峯山門馬口山麓（菊地，1948，1960），山根（菊地，1959），陸前；五葉山（菊地，1961）。

一般分布地域：日本（本州北中部）。

記事：日本の固有種。本地域に於ては産地は局限され、確実な産地は上述のものだけである。前種に基似たもので葉形のみでは区別は困難で、明白な区別は種子に附属する翼片の差異によらなければならない。本種では種子の両端に翼があるが、前種では一端のみに翼がある。

RANUNCULACEAE キンボウゲ科

327. *Clematis ochotensis* (Pall.) Poiret ミヤマハンショウズル, エゾミヤマハンショウズル

標本産地：陸中；早池峯山（菊地，1946，1959）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北中部高山），東シベリア，樺太，千島，カムチャッカ。

var. *Fauriei* (H. Boiss.) Tamura コミヤマハンショウズル

標本産地：陸中；姫神山（菊地，1948，1955）。

一般分布地域：日本（本州北中部高山）。

記事：高山及び亜高山帯の林縁，岩石地などに生える。葉の通常2回3出状複葉のものはミヤマハンショウズル，1回3出の形のものがコミヤマハンショウズルであり，東北地方のものは大部分はコミヤマハンショウズル型のものである。当地域内の他の産地として陸前五葉山が記録されているが（笹村：岩手県沿岸帯植物誌 p.38, 1950：ミヤマハンショウズル *C. ochotensis* Poir. var. *japonica* Nakai として）。著者等はその記録を採用したことがあるが（菊地・望月・高橋：岩手県五葉山の植物—北陸の植物 8—2, p. 61, 1964），いまだ同山で確認し得ない。

328. *C. stans* Siebold et Zuccarini クサボタン

標本産地：陸前；五葉山（菊地，1962）。陸中；築川（染谷徳五郎，1909），大川目（菊地，1958），安家（菊地，1956），区界（菅谷保之，1958），野田（菊地，1956），狛鼻溪（佐々木洋一，1954）。陸奥；福岡（菊地，1956），名久井岳（菊地，1963）。

一般分布地域：日本（本州，四国）。

記事：日本の固有種，雌雄異株である。東北地方に於ても各地の低山地に見い出され，地域的な差は認められない。九州の山地に産するものは雄蕊の葯はより短かく，花糸がより長く約の2～3倍にもなる形で，ツクサボタン var. *austrojaponensis* Ohwi として区別されている。

329. *C. japonica* Thunberg var. *brevipedicellata* Makino アズマハンショウズル

標本産地：陸前；大六天山頂上（猪熊泰三，1934）*⁵，金華山島（木村有香，1954）*⁶，雪沢（菊地，1935—シロハンショウズル型）。

一般分布地域：日本（本州北中部）。種としては本州西南部及び四国にも分布する。

記事：本種は日本の固有種で変化が多く，北限は太平洋側では上記の産地，日本海側では山形県山寺地方に達する。花被の色が紅紫色，花の総梗が長く中央付近に2小苞ある形が基準型のハンショウズル (*C. japonica* Thunberg) で，中部地方から関東，東北地方の南部にかけて分布している。総梗が短縮して外見上は小梗のみとなって，小苞のない形となり。花色の淡黄緑色となった型はアズマハンショウズルである（この形はトリガタハンショウズル *C. tosaensis* Makino と同一のものであるとの見解もある。田村，1954）。又他の形質はハンショウズルと同一であるが，花色の淡黄白色のものはシロハンショウズル (*C. japonica* Thunb. form. *eremea* (Makino) Ohwi) である。アズマハンショウズルに似て花色の帯紫色のものはムラサキハンショウズル (*C. japonica* var. *brevipedicellata* form. *purpureo-fusca* Hisauchi) である。シロハンショウズル及びアズマハンショウズルも共に母型に伴なって東北地方の中部まで分布しているものと考えられるのであるが，充分に検討されていない。著者の標本の最北の産地のものは陸前高田市矢作町雪沢産で，シロハンショウズル型のもので（菊地，1935—40年前に著者の採集した標本は花色が明らかに淡黄白色のものであったが，貯蔵久しきに及んで徐々に帯紫色に変化している），種としての分布からは，この産地は太平洋側の北

限にあたるものである。尚正解を得ない点が多いので今後の研究に備えて参照すべき文献を脚註にあげた。^{*}従来本地方から記録されたトリガタハンショウズルは、著者の見解によればアズマハンショウズル或はシロハンショウズルに該当するものとする（トリガタハンショウズルとアズマハンショウズルは同一であると見る見解が正しいということになれば別であるが）。

330. *C. apiifolia* A.P.de Candolle ボタンズル

標本産地：陸前；金華山島（菊地，1962），広田（戸羽親雄，1954），陸中；築川（染谷徳五郎，1909），仙人峠（小水内正明，1957），盛岡（菊地，1957；関山房兵，1961；菊地正之，1957），田瀬（菅谷保之，1957），薄衣（菅原敏夫，1958），岩谷堂（菊地，1956）。陸奥；種差（清川宏保，1963）。

一般分布地域：日本（本州，四国，九州），朝鮮，中国。

記事：低山地，路傍，農耕地畔などに普通に生える植物。葉が2回3出状となる形のコボタンズル var. *bitternata* Makino は当地域に於ては金華山島から見い出されている（菊地，1956，1961）。

331. *C. ternifolra* A.P.de Candolle センニンソウ

標本産地：陸前；金華山島（菊地，1962），柳津（菊地，1964），女川（菊地，1963）；大船渡（菊地，1961），雄勝（菊地，1961），岩井崎（菊地，1956），広田（菊地，1955），陸中；釜石（菊地，1965），大槌町根浜（伊藤敬太郎，1964），両石（菊地，1961），真崎（菊地，1961），田ノ浜（菊地，1961），宮古（菊地，1946），小本（菊地，1949），種市（菊地，1950）。陸奥；種差（菊地，1961；清川宏保，1963）。

一般分布地域：日本（北海道西南部，本州，四国，九州），朝鮮，台湾。

記事：本地域に於ては海岸に沿って分布し，内陸部には見られない。茎葉は辛味物質を含み頗る辛い，新芽をつんで辛味料として料理に用いることができる（有毒植物と言われているのだが）。

332. *C. × Takedana* Makino ムラサキボタンズル

標本産地：陸中；達曾部（小水内長太郎，1952），猿沢（菊地，1951），大川目（菊地，1958），龍泉洞（菊地，1958）。

一般分布地域：日本（本州北中部）。

記事：本植物はクサボタンとボタンズルの自然雑種であって初め長野県より記載された（牧野，1907）。その後所々に見い出されているが，当地域に於ても母植物の混生するような場所に時折，見い出される。著者の見ているものは多くは石灰岩地方に出現し，つる性植物で花被は大形帯紫色，茎葉も花も凡そ母植物の中間的形質を示し，総て不稔である。

*1) 牧野富太郎：Observation on the Flora of Japan. Bot. Mag. Tokyo, 18. pp.51—52 (1904) & 28 p.28 (1914)。

2) 沢田武太郎：箱根植物雑記（其五）。植物研究雑誌 12, p.50 (1936)。

3) 久内清孝：あずまはんしょうずるの事。植物研究雑誌 13, p.217 (1937)。

4) 田村道夫：東亜産センニンソウ属についての知見II。植物分類地理 15, p.117 (1954)。

5) 猪熊泰三：牝鹿半島及び其の付近の森植物。東大農学部演習林報告第20号 p.155及び p.163 附図6 (1934)。

6) 木村有香：宮城県北部の海岸地帯の植物。三陸海岸・牡鹿半島・松島学術調査書 p.34 (1954)。

7) 菅谷貞男：スピキレギウム センダイクムIII。生態学研究14—2, p.177 (1956)。

8) 牧野富太郎：日本植物誌図篇第1巻第12集，第72図版トリガタハンショウズル——日本植物図説集p.131 (1933)。

9) 奥山春季：自然科学と博物館 6, p.15 (1935)。

10) 大井次三郎：日本植物誌旧版 p.513 (1953)，同上新版 p.597 (1965)。

333. *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Sprengel オキナグサ

標本産地：陸中；岩山（染谷徳五郎，1909；菊地，1946），仙人峠（小水内正明，1957），安家森（菊地，1965），和賀展勝地（菊地，1949），姫神山（菊地，1960；菅原韶吾，1960），区界（菅谷保之，1958），遠島山（菊地，1953），伊保内（菊地，1953），外山（菊地，1950），達曾部（千葉高雄，1953），谷内（吉田長次郎，1920）。

一般分布地域：日本（本州，四国，九州），朝鮮，中国。

記事：低山地，原野など主に乾燥した草原に生える。観賞の価値があるが栽培が困難である。

334. *Anemone Hepatica* Linn. var. *japonica* (Nakai) Ohwi form. *magna* Hiroe

オオミスミソウ

標本産地：陸中；江刺市藤里（高野祐晃，1965；菊地，1966）。

一般分布地域：日本（本州北中部，主に日本海沿岸地方）。種としては欧州，満州，朝鮮に分布。

記事：ミスミソウは本州，四国及び九州に点々と隔離分布する植物で，日本産のものは種を大きくみて欧州産のものの変種，或は亜種と考えられてきている。最近，形態，分布，核型などの方面から再検討されて，かなり詳しく研究されたが，尚多少の疑義が残されているように見うけられる。東北地方に分布するものもミスミソウとオオミスミソウの両型があるのか，それとも後者のみであるのかは今後の研究課題である。それに備えて脚註に文献をあげた*。当地域には最近にいたって単に1産地が明かにされた（藤里の愛宕山）。岩手県下では奥羽山系の東斜面に当る西鉛及び台温泉付近の低山地林内及び焼石岳山麓の石渕ダム付近の溪側の一部に自生が知られている。尚，本種及びその近縁種は独立の属（*Hepatica*）と見る見解もあることを付け加えておく。

335. *A. raddeana* Regel アズマイチゲ

標本産地：陸中；浅岸（吉田長次郎，1917），区界（菅谷保之，1959），国見山（菊地，1959），多々良山（鳥羽源蔵，1935），仙人峠（小水内正明，1957）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国），アムール，ウスリー，朝鮮，樺太。

事記：低山地の林内に普通に生える。開花期は4月で，結実の後地上部は枯れる。

336. *A. pseudo-altaica* Hara キクザキイチゲ，キクザキイチリンソウ

標本産地：陸前；広田（菊地，1964）。陸中；姫神山（菊地，1960），区界（菅谷保之，1958），和賀展勝地（菊地，1948），外山（菊地，1951），高洞山（菊地，1951），櫃取（菊地，1966）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北中部）。

記事：日本の固有種。低山地から稍高所（凡そ1000m）にわたって林内の半陰地に生える。前種同様結実後地上部が枯れる。花色には変異があり，白色のものや青紫色のもの及びその中間色のものが知られ，多くは同一集団内に混生する。

337. *A. debilis* Fisher ヒメイチゲ

標本産地：陸前；五葉山（菊地，1962）。陸中；姫神山（菊地，1951，1958），早池峯山（菊地，1938，1959），

* 中井猛之進：日本領内すはまさう *Hepatica* 属植物 (I. II)。植物研究雑誌 13, p.227 & 305 (1935)。

広江美之助：日本産ミスミソウ群の細胞分類学的研究 (欧文)。植物学雑誌 70 p. 4 (1957)。

原寛・黒沢幸子：日本産スハマソウ類における分化 (欧文)。植物研究雑誌 33, p.265 (1958)。

栗橋 (小水内長太郎, 1944), 薬師ヶ岳 (菊地, 1959), 区界 (菊地・菅谷, 1958), 安家森 (菊地, 1965), 檜取 (菊地, 1966), 室根山 (菊地, 1951), 遠島山 (菊地, 1953), 外山 (菊地, 1953)。

一般分布地域: 日本 (北海道, 本州北中部, 近畿), 樺太, 南千島, 満州, 東シベリア, カムチャッカ。

記事: ブナ帯上部から高山帯にわたって, 林下稀に草地に生える。花時には非常に小さい植物であるが, 花後に莖葉ともに増大し別の植物であるかの如き外観を呈する。葉の細形の1品種 *ホソバヒメイチゲ* form. *gracilis* Hara et Mizushima が時折見られる。尚 *エゾイチゲ* *A. yezoensis* Koidz. は本種の巨大型とも考えられるものであるが, 北海道のみではなく東北地方の諸山地にもこれに相当する型が生育していることはたしかである。ただ, 地下部や根生葉及び花のある完全な標本が得られないので, いまだ確定するにいたっていない。

338. *A. stolonifera* Maximowicz サンリンソウ

標本産地: 陸前; 陸前高田市生出 (菊地, 1954)。陸中; 檜取 (菊地, 1966), 外山 (菊地, 1950, 1958), 岩泉町大平 (菊地, 1957), 盛岡市北上川岸 (菊地, 1951), 姫神山 (菊地, 1945), 松草 (菊地, 1960), 大川目 (菊地, 1952), 恩徳 (小水内長太郎, 1960)。

一般分布地域: 日本 (北海道; 本州北中部), 台湾, 朝鮮, 中国, 満州。

記事: 山地の溪側や湿原の縁部の林下に生える。稀な植物であり, 上記の産地は本地域に於て確認された産地の全部の記録である。その中で, 外山地方は本種の集団自生地で相当の面積にわたって自生が知られたが, 岩洞ダムの建設によってその大半の自生地が失われた。地下匍枝をひくこと, 地上部は花後永存して生長するなど近縁のニリンソウ, キクザキイチゲなどと相異なる習性である。金華山島からの記録 (青森営林局: 宮城県植物目録 p. 40 (1935) は誤記録であろう。

339. *A. flaccida* Fr. Schmidt ニリンソウ

標本産地: 陸前; 矢作 (吉田長次郎, 1915), 鬼形峠 (菊地, 1966), 金華山島 (菊地, 1961, 1966)。陸中; 外山 (菊地, 1951), 狛鼻溪 (菊地・佐々木洋一, 1953), 角の浜 (菊地, 1953), 姫神山 (菊地, 1960), 和賀展勝地 (菊地, 1948), 国見山 (菊地, 1959), 区界 (菅谷保之, 1959), 高洞山 (菊地, 1965), 軽米 (前田禎伍, 1962), 猿沢 (菊地, 1966), 大川 (菊地, 1966), 元村 (菊地, 1957), 早池峯山 (菊地, 1960)。陸奥; 階上岳 (菊地, 1964)。

一般分布地域: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), 樺太, 中国北部, 満州, アムール, 朝鮮。

記事: 原野及び山地溪側にしばしば群生する。本来は有毒植物であるが, 煮あげて水にさらし食用とするところがある。フクベラ或はセキナの方言がある。オオニリンソウ *A. flaccida* Fr. Schm. var. *aconitifolia* Honda (Honda: Bot. Mag. Tokyo, 46 p. 637, 1932) は本地域の大志田産を type とする変種であり, 葉は皆全裂し, 各裂片は更に2, 3深裂し, 小裂片は線形, 或は披針形, 鋭尖頭の形のもので, 故鳥羽源藏氏の採集品であるが, 著者はいまだ確認するにいたらない。金華山島には本種に属する矮小な型が生育しており, かつて, サンリンソウ (*A. stolonifera* Maxm.) と誤認されたことがある (サンリンソウの項の記事を参照) が, この型は栽培観察の結果, 固定的な1変型と見なし得るものであることを知った。それ故, ここに新品種チャボニリンソウ (新称) *A. flaccida* form. *debilis* (nov.) として記録することにする*。

* *Anemone flaccida* Fr. Schmidt form. *debilis* M. Kikuchi, form. nov. — Planta valde debilis, ca. 5—6 cm alta. Folia omnia 5-partita, minora 1.5—2 cm longa, 2—3 cm lata. Sepala oblonga minora ca. 1 cm longa, 4—5 cm lata, ceterum ut in typo. Hab. in Prov. Rikuzen, Insul. Kinkazan (leg M. Kikuchi, anno 1966, Types in IUH).

340. *A. hupehensis* Lemoine var. *japonica* (Thumb.) Bowles et Stearn シュウメイギク

標本産地：陸前；横山（菊地，1963），大船渡（菊地，1953）。陸中；猿沢（菊地，1960），宮守（小水内長太郎，1952）。

一般分布地域：日本（各地に野生化）。

記事：中国の原産で，日本のものは観賞用として古い時代に渡来したものと思われる。しかし現在に於ては栽培されているもののほかに，全く自生状態のものが各地に知られ，当地域に於ては主に石灰岩地方に野生状態のものが見られる。若干の栽培品種も知られている。

341. *Ranunculus Kawakamii* Makino ヒメキンポウゲ，ツルヒキノカサ

標本産地：陸前；岩井崎（菊地，1956），小白浜（藤巻淳，1950），盛川河口（菊地，1957），広田（菊地，1955），津谷（菊地，1959），長面（菊地，1962），高田松原（菊地，1964）。陸中；種市（菊地，1950），津軽川河口（菊地，1958），角の浜（菊地，1953）。陸奥；白浜（菊地，1954）。

一般分布地域：日本（本州—関東及び北部の海岸）。

記事：海岸塩沼湿地の植物で日本の固有種。太平洋岸の南限は上総の一の宮海岸。日本海岸では羽後の吹浦が南限で，知られたる限りに於ては本州北部太平洋岸に於て濃密な分布を示す。著者等の研究によれば*，体細胞染色体数は32で4倍体種であることを示す。本種は属の範囲を少し狭くとると，ヒメキンポウゲ属(*Halerpestes*)が認められ，*H. Kawakamii* (Makino) Tamuraの学名が採用される（田村道夫：東亜産キンポウゲ科についての新知見1。植物分類地理14巻 p.110, 1956）。又種の範囲を広くすると北半球の亜寒帯に広く分布する *R. Cymbalaria* の亜種 *R. Cymbalaria* Pursh. ssp. *Kawakami* (Makino) M. Kikuchi と見ることが出来る*。

342. *R. sceleratus* Linnaeus タガラシ

標本産地：陸中；盛岡（鳥羽源蔵，1935），宮古（菊地，1963），藤沢（菊地，1959）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），欧亜，北米，北アフリカ。

記事：湿地及び平地の日当りのよい水湿地に極めて普通に生え，5月頃花を開く。

343. *R. japonicus* Thunberg ウマノアシガタ，キンポウゲ

標本産地：陸前；水上山々麓（菊地，1953）。陸中；盛岡（菊地，1958，1964），猊鼻溪（佐々木洋一，1954），沼宮内（鳥羽源蔵，1933），伊保内（菊地，1953），小久慈（菊地，1958），安家（菊地，1957），区界（菅谷保之，1958），国見山（菊地・寺方，1959），大川（菊地，1966）。陸奥；階上岳（菊地，1964），鮫（菊地，1955）。

一般分布地域：日本（北海道西南部，本州，四国，九州），朝鮮，中国，琉球，台湾。

記事：路傍，原野，農耕地の畦畔などに極めて普通に生える。有毒植物である。葉形や毛の性質，花色などに変化が多く，重弁花品種をキンポウゲ，単弁花品種をウマノアシガタとして区別する見解（牧野氏説）もあるが，ここでは通説にしたがって両型を和名の上では区別しない立場を採用した。

344. *R. grandis* Honda オオウマノアシガタ

標本産地：陸前；大船渡（菊地，1962），五葉山々麓（菊地，1954），高田市生出（菊地，1954），氷上山（菊

* 菊地政雄・林崎輝雄：ヒメキンポウゲ (*Ranunculus Kawakamii* Makino) の分布，生態及び核型について。岩手大学学芸学部研究年報第15巻 第2部 p.25 (1960)。

地、1950)、猪川(菊地、1963)、御堂(菊地、1965)、安家森(菊地、1965)、区界(菊地、1950、1965)、重茂(菊地、1962)、仙人峠(小水内正明、1957)、黒森山(菊地、1963)、土淵(菊地、1964)、上米内(菊地、1962)、姫神山(菊地、1950)、龍泉洞(菊地、1957)、安家(菊地、1957)、江川(菊地、1957)、伊保内(菊地、1953)、田野畑(菊地、1953)、軽米(菊地、1954)、山根(菊地、1953)、葛巻(菊地、1953)、野田(菊地、1957)、外山(菊地、1958)、長興寺(菊地、1958)、外川目(菊地、1960)、又一の滝(菊地、1959)、豊間根(菊地、1961)、室根山(菊地、1961)、有芸(菊地、1966)、大川(菊地、1966)、茂市(菊地、1966)、種市(菊地、1957)、小友(菊地、1966)。陸奥；八戸(菊地、1960)、福岡(菊地、1958)、名久井岳(菊地、1964)、種差(菊地、1955)。

一般分布地域：日本(本州北部—北上山系)。

記事：ウマノランガタに近縁であるが、地下匍枝をもつことで、それからはっきり区別される。本植物は故鳥羽源蔵氏採集の区界地方産標本に基いて、本田正次氏によって新種として記載発表された植物である(植物学雑誌43; p.657, 1929)。その後著者等の調査によって、この植物は北上山系全域にわたって散在的分布をしていることが明らかとなり、沢山の産地が判明した。一方、これに近縁の植物が千島、色丹島(シコタンキンボウゲ *R. acirs*. L. var. *austrorurilensis* Tatewaki, 1940)、北海道東海岸地方(アイヌキンボウゲ *R. transsochotensis* Hara, 1937—この型は下北半島の桑畑山にも産する。菊地、1961)、上州尾瀬ヶ原(オゼキンボウゲ *R. grandis* var. *ozensis* Hara, 1943)、甲斐の郡内地方(グンナイキンボウゲ *R. mirissimus* Hisauchi, 1935)、から知られ、満州やモンゴリア地方にも近縁種が知られ、原寛(1937, 1943, 1956)及び北川政夫氏(1966)らによる所見の発表がある*。著者も当地方産オオウマノアソガタの変異体として、ムツキンボウゲ(*R. g.* var. *mitsuensis*)及びアツカキンボウゲ(*R. g.* var. *akamusi*)を記載したことがあったが(脚註の文献、4, 1957)、沢山の材料が得られた現在の知見によれば、この両型はオオウマノアソガタの変異の中の中に含まれる。

尚、最近の北川氏の意見によれば、これら匍枝をもつオオウマノアソガタの一群は、それぞれ、満州産の *R. cuneifolius* Maximowicz の1変種と認むべきものである(脚註5)。原・黒沢両氏の核型研究の結果によれば、オオウマノアソガタの染色体数は $2n=42$ で6倍体に相当し(オゼキンボウゲもほぼ同型)、グンナイキンボウゲとアイヌキンボウゲはともに、 $2n=28$ で4倍体に相当する。しかし、図示された核型から判断すると異質倍数体と認められる。それ故遺伝学的には少なくとも、オオウマノアソガタ、グンナイキンボウゲ及びアイヌキンボウゲは、それぞれ独立種と認めることは妥当であるように見える。しかしオオウマノアソガタは本地域に於て分化した新固有の植物とみることができる。

345. *R. repens* Linnaeus ハイキンボウゲ

標本産地：陸中；東稻山麓、赤生津(菊地、1964)。

一般分布地域：日本(本州北中部、北海道)、北半球温帯北部一般。

記事：東北地方は本種の分布範囲となっているが確認された産地は比較的少ない。太平洋岸に於て著者が確認した産地は陸奥の小川原湖周辺の姉沼べり及び上記の産地のみである。平地の池沼川岸などの縁部の湿性草原に生える。地上匍枝をひいて繁殖する。東北地方からの古い記録の中にはツルキツネンボタン *R. hakkoensis* Nakai の誤記録を含むように見える。

*1) 原寛：みやまきんぼうげの一群、植物研究雑誌 13, p.775 (1937)。

2) 〃：おおうまのあしがた及びソノ近縁種、同上誌 19, p.357 (1943)。

3) 原寛・黒沢幸子：日本産キンボウゲ近似種の細胞分類学所見(欧文)植物学雑誌 69, p.345 (1956)。

4) 菊地政雄：北日本植物新考察(I)。岩手大学学芸学部研究年報第11巻第2部 p.687 (1957)。

5) 北川政夫：東亜植物断想録(22)。植物研究雑誌 41 p.363. (1966)。

346. *R. chinensis* Bunge コギツネノボタン

標本産地：陸中；盛岡（菊地，1965—岩手大学構内），高松池畔（菊地，1961），久慈（中村心一，1953）。

一般分布地域：日本（北海道，本州），朝鮮，中国，東シベリア。

記事：平地の水湿に富む草原に生える。本地域に於ては稀な植物で確認された産地は少ない。

347. *R. quelpaertensis* (Léveillé) Nakai キツネノボタン

標本産地：陸前；柳津（菊地，1964），網地島（菊地，1960）。陸中；岩泉町櫛取（菊地，1964），盛岡（菊地，1962），白見山（菊地，1963），仙人峠（菊地，1957），宮古（菊地，1962），又一の滝（菊地，1959），国見山（及川浩志，1954），区界（菅谷保之，1958），東稲山（菊地，1964），高洞山（菊地，1953），高松池畔（菊地，1951）。陸奥；八戸（力石紀子，1965）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），朝鮮，琉球，南千島，中国。

記事：路傍，耕地の畦畔。山地の水湿地などに普通に生える。変化が多く，同じ場所に生えるものでも，茎葉に見られる毛の量や開花期などに移行が見られる。毛について見るに当地域産の大多数の標本では有毛型であって，ヤマキツネノボタン var. *quelpertensis* に相当するし，キツネノボタン var. *glaber*. H. Boiss. に該当するものは非常に少ない。金華山島産のものはヤマキツネノボタンに相当するものは稀に見られるが，多くは全体が非常に小形で茎の下半部が伏臥し，節より発根する型である。葉や茎には斜上する伏毛がある。この性質は盛岡に移殖した個体及びそれから生じた実生の個体に於ても固定して変化しないことが確められた。この型の植物は従来記載されたハイキツネノボタン form. *prostratus* (Nakai) Kitamura に相当するものである。恐らく，この型の植物は野生鹿との共存関係に適應する型として，この島で，排他的に繁栄しているものとする。有毒植物ではあるが毒性が弱く，この島では鹿の採食植物となっている。

348. *R. cantoniensis* de Candolle ケキツネノボタン

標本産地：陸前；柳津（菊地，1964），釜谷（菊地，1962），浦宿（菊地，1963），大船渡（菊地，1954），高田（菊地・斎藤純，1953）。

一般分布地域：日本（本州，四国，九州），朝鮮，台湾，中国。

記事：南方系の植物で，多くは水田の畦などに生える。当地域産で，確実に本種と同定される標本は陸前の海岸寄りの地域から得られている。当研究室所蔵の標本では陸奥の奥入瀬河口付近産のものがあり，この産地は北限に近いものであるかも知れない。前種に可成り類似した植物であるが，果実の花柱が彼の如く強く曲らないこと（本種では成熟した果実に於て花柱の先端部が少し曲がる），果実の両面に於て縁辺に近く不明稜線があることなどによって区別される。又前種より開花が早く，結実後間もなく枯れる。

349. *R. nipponicus* (Makino) Nakai var. *major* Hara バイカモ，ウメバチモ

標本産地：陸前；大船渡（菊地，1954）。陸中；岩泉町櫛取（菊地，1964），岩泉町大平（菊地，1957），岩泉（菊地，1957），津軽石（菊地，1956），山形村岡（菊地，1958），盛岡（菊地，1967）。

一般分布地域：日本（北海道，本州）。

記事：当地域産のものは浮葉を欠く形のもので，本変種に該当するものである。清流や，山間部の清澄な池沼中に生える。本種及び類品を独立の属 *Batrachium* とじて取扱う見解もある。ゆてて水にさらし食用に供することができるが，一般には有毒植物と考えられている。

350. *Adonis amurensis* Regel et Radde フクジソウ

標本産地：陸中；赤沢（菊地，1965），江刺市愛宕山（菊地，1966），猿沢（菊地，1948），多々良山（鳥羽源蔵，1935），姫神山（菊地，1958），谷内（吉田長次郎，1920），国見山（菊地，1959），平内（菊地，1953），浅岸（菊地，1961）。陸奥；種差（菊地，1957），名久井岳（菊地，1964），階上岳（菊地，1964）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，九州），朝鮮，満州，東シベリア。

記事：原野，山地林内などに生える。東北地方に於ては早春最も早く開花する宿根草本で，クサマンサク或はガンニチソウの方言で知られ，しばしば園養される。培養変型にエダチフクジソウ *A. amurensis* var. *ramosa* (Franch.) Makino があり，所々に栽培されているのが見られる。この型は花はより小さく開花期はおそいが，各枝端にも花をつけるので花期が長期にわたる特徴があり，園芸品種としての価値は母型より高い。

351. *Thalictrum foetidum* Linnaeus ニオイカラマツ，イワテチャボカラマツ（菊地，1961）

標本産地：陸中；大川目（菊地，1952，1954），山根（菊地，1954），岩泉町元村（菊地，1956，1957），岩泉町欠山（菊地，1953，1957），岩泉町宇霊羅山（菊地，1955，1957）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北部一岩手県北部石灰岩上），満州，蒙古，シベリア，欧州。

記事：従来岩手県からココカラマツ (*T. yezoense* Nakai) の名で岩手山及び早池峯山から記録されたもの（青森営林局：岩手県基準帯植物目録 p.34, 1934）はここに記録する植物とは別物で，後記するようにオオカラマツ (*T. minus* L. var. *stipellatum* (C.A.Mey.) Tamura) と認むべきものである。本種が岩手県北部の石灰岩地域に産することについては清水建美氏の報告が最初のものである*。同氏はその際，日本産のこの群の植物を欧州産種 *T. foetidum* L. の亜種と認め subsp. *glabrescens* (Takeda) T. Shimizu) の名を提案し，且つ岩手県産の型を葉の上面にも腺毛をもつ特徴によって北海道産の型から区別して，その変種 (var. *iwatense* T. Shimizu) と認めた。しかし，北村四郎氏は岩手県産の型は欧州産のものから区別されないという見解のもので，*T. foetidum* L. の学名を採用したので（保育社刊：原色日本植物図鑑草本篇 II p.237, 1961）。著者はこの説に従うことにした。生品に於ては茎葉全体に1種の臭気があることは事実であるらしく思われる。

352. *T. minus* Linn. var. *hypoleucum* (Sieb. et Zucc.) Miquel アキカラマツ

標本産地：陸前；広田（戸羽親雄，1954），赤崎（菊地，1953），長部（菊地，1955），網地島（菊地，1960），志津川（菊地，1959），志津川町椿島（菊地，1956），金華山島（菊地，1962，1965）。陸中；船越大島（菊地 1965），区界（菊地，1954，1965；菅谷保之，1958），盛岡（菊地，1958），大川（菊地，1954），宮古（菊地 1946），田老（菊地，1955），姫神山（菊地，1961），室根山（菊地，1953），御箱崎（小水内長太郎，1959），姉吉（菊地，1962），根浜（伊藤敬太郎，1964），国見山（菊地，1959），大槌（伊藤敬太郎，1964）。陸奥；名久井岳（菊地，1963），鮫（菊地，1961），福岡（菊地，1960），折爪岳（伊藤昭子，1961）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），満州，朝鮮，中国，モンゴリア。

var *stipellatum* (C.A.Mey.) Tamura form. *hayachinense* M. Kikuchi ハヤチネカラマツ

標本産地：陸中；早池峯山（菊地，1949，1956，1959；吉田長次郎，1919；安本広静，1951；小水内長太郎，1950，1958）。

一般分布地域：日本（北海道，本州），樺太，千島，朝鮮，満州，中国，シベリア，欧州，北米。

記事：アキカラマツは本州に於ては原野，低山地の普遍的分布の植物である。これに似て北地及び高山に分布する長花梗（瘦果の3～8倍）のものがオオカラマツである**。後者の型は本州に於ては丈が小さくなり，主に岩上及び草地に生える。東北地方では各地の高山草原に見られ，ただ八甲田山の城ヶ倉溪流に於ては岩

* 清水建美：岩手県下閉伊郡の石灰岩地帯より得た特記すべき植物3。植物分類地理17，p.148（1958）。

** 田村道夫：日本及び朝鮮のカラマツソウ属。植物分類地理 15，p.80（1953）。

上に生える。又早池峯山は本地域唯一のオオカラマツの産地であるが、この型は白色の花被片が他の産地のものに比べ、かなり大きい。それ故、新品種ハヤチネカラマツ、(新称)と認めてよいと思われる*。

353. *T. chionophyllum* Nakai ミヨウギカラマツ

標本産地：陸中；山根(菊地, 1953), 狛鼻溪(菊地, 1954, 1956, 1965), 欠山(菊地, 1953, 1957), 大川目(菊地, 1952, 1954, 1958), 馬仙峽(菊地, 1960, 1964), 大川(菊地, 1954), 元村(菊地, 1956, 1957), 門崎(菊地, 1958), 毛ヶ崎(菊地, 1960), 龍泉洞(菊地, 1957), 遠野市不動岩(菊地, 1956, 1962), 船越大島(菊地, 1965)。

一般分布地域：日本(本州—東北及び関東地方)。

記事：本種は初め群馬県妙義山の特産植物として記載発表されたが(前川文夫：新種妙義唐松—植物研究雑誌 10, p. 695, 1963), この植物の独立性を認める人と認めない人とがある。オオカラマツの異名として取扱われる場合もある(田村道夫, 1953)。しかし、私見によれば、アキカラマツとも亦、オオカラマツとも相異なる。葉裏が非常に白いこと、しばしば葉裏一面に独特の小粒点をしくこと、茎の下半部は、生時多くは帯紫褐色を呈すること、花序はあまり大きくならず、花梗の長さはアキカラマツとオオカラマツの中間的な長さであること、常に岩場に生えることなどの点に於て前種から区別される。東北各地の低山地の岩上に生えているが、アキカラマツから区別されない場合が多いので、殆ど記録されていない。

354. *T. Sekimotoanum* Honda イワカラマツ

標本産地：陸中；岩泉町大川(菊地, 1954)。陸奥；福岡(菊地, 1957, 1960)。

一般分布地域：日本(本州—栃木, 長野, 岩手)。

記事：本種は栃木県岩船山の岩上から発見されたものであるが(本田正次：植物及び動物 6 卷 p. 1403, 1938), 本地域にも稀に見い出される。低山地の岩上に生え、一見して前種に類似したものであるが、花期が凡そ1ヵ月ぐらい早く、茎の上部、花序の軸、葉の裏面などに腺毛を稍密に生じることで区別される。本地域に見い出された上記の2産地では前種と共存している。アキカラマツの変種と見る見解(*T. minus* L. var. *Sekimotoanum* (HONDA) Kitamura, 1961)もある。

355. *T. aquilegifolium* Linn. var. *sibilicum* Hegel et Tiling カラマツソウ、マンセンカラマツ、オオミカラマツ

標本産地：陸中；軽米(菊地, 1956), 大野(菊地, 1958), 安家(菊地, 1957), 大川目(菊地, 1958), 外山(菊地, 1951, 1958), 葛巻(菊地, 1954), 巻堀(菊地, 1950), 姫神山(菊地, 1951), 笹渡(菊地, 1963), 沼宮内(菊地, 1965)。陸奥；小鳥谷(菊地, 1945), 種差(菊地, 1954)。仁佐平(菊地, 1954), 福岡(菊地, 1957), 鮫海岸(菊地, 1957)。

一般分布地域：日本(本州, 四国, 九州), 樺太, 千島, 朝鮮, 満州, 中国, シベリア。

記事：本種は東亜の大陸に分布中心をもつ植物で、日本の産地は不連続的集団を形成している。本地域も又その一集団発生地で、姫神山麓地方以北、小川原湖周辺付近までの間の低地湿所に生える。後者とししばしば混同されるのであるが、植物全体が大きく発達し、花序も大きくひろがり、沢山の花をつけるが着果の割合が少ない。且つ果実は短かく倒卵形、截頭であるので区別される。

* *Thalictrum minus* var. *spellatum* (C.A.Mey.) Tamura form. *hayachinense* M.Kikuchi, form. nov. — Perianthiis majoribus ca. 4-5 mm longis 1.2-1.5 mm latis, ceterum ut in typo. Hab. in Prov. Rikuchu, Mt. Hayachine (leg. M. Kikuchi, anno 1959, tpus in IUH.).

356. **T. mitsinokuense** Koidzumi ミチノクカラマツ, カラマツソウ

標本産地：陸前；五葉山（菊地，1954，1961，1962）。陸中；早池峯山（菊地，1946，1947，1950，1956，1959）。

一般分布地域：日本（北海道，本州）。

記事：本種は，しばしば前種の高山型と考えられ区別されないこともあり，又前型と欧州産の母型との中間型（*T. aquilegifolium* var. *intermedium* Nakai）とされることもあるが，著者は分布域や生態的相異，果実にあらわれる明らかな特徴によって別種と信ずるが故に，上記の学名を採用したいと思う。前種は低地草原に生活するのに反し，本種は原則として高山の草原に生育している。果実はより細長く，頂端な鋭頭に終る。花期の標本では前種と区別することは難しいが，簡単な区別があるのかも知れない。

357. **T. filamentosum** Maxim. var. **tenerum** (Boiss.) Ohwi ミヤマカラマツ

標本産地：陸前；五葉山（菊地，1961），陸中；豊間根（菊地，1961），仙人峠（菊地，1954），龍泉洞（菊地，1957），薬師ヶ岳（菊地，1959），早池峯山（菊地，1959），小国新田（菊地，1959），狛鼻溪（佐々木洋一，1954）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），南千島，朝鮮，満州。

記事：低山地の溪谷の岩場から亜高山帯の草原にわたって稍普通に生える。

358. **Trautvetteria japonica** Siebold et Zuccarini モミジカラマツ

標本産地：陸中；岩泉町蓬平（菊地，1964），白見山（菊地，1963），鮎ヶ崎（菊地，1961），薬師ヶ岳（菊地，1959），又一の滝（菊地，1959），早池峯山（菊地，1960；小水内長太郎，1953），外山（菊地，1950，1958），遠島山（菊地，1952，1953），沼宮内（菊地，1945）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北中部），南千島，樺太，ウスリー。

記事：本種は東北地方に於ては奥羽山脈以西の諸高山，亜高山帯林内に極めて普通の植物であるが，本地域に於ては稀産種であり，上記の産地は著者の確認した全部の産地を示す。植物体全体の大きさも奥羽山地のものに比べ，一般に小さく且つ葉身の基脚が開く形のものが多く，かつて，*T. japonica* Sieb. et Zucc. forma *minor* Nakai イワモミジカラマツとして記録されたことがあるが（岩ノ渡，門馬—青森営林局：岩手県基準帯植物目録p. 34，1934），本地域のより乾燥的な土壌条件に対する適応型と考え，このような型を区別しないことにした。

359. **Aquilegia flabellata** Sieb. et Zucc. var. **pumila** Kudo ミヤマオダマキ

標本産地：陸中；早池峯山（菊地，1950，1956，1959；吉田長次郎，1918）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北中部），千島，樺太，北朝鮮。

記事：本地域に於ては早池峯山の高山帯のみに生える。観賞用として栽培されている普通のオダマキは，この植物から作出されたものと考えられているが，命名上はオダマキの方が母型であるかのような取扱いを受けている（*A. flabellata* Sieb. et Zucc.，命名上の母種）。

360. **A. Buergeriana** Siebold et Zuccarini ヤマオダマキ

標本産地：陸前；五葉山（菊地，1953）。陸中；外山（菊地，1958），区界（菊地，1950，1961），姫神山（菊地，1951，1961），遠島山（菊地，1953），又一の滝（菊地，1959），宮守（菊地，1957），仙人峠（小水内正明，1957），黒森山（菊地，1963），大志田（菊地，1962），龍泉洞（菊地，1957），川目（吉田長次郎，1917）。陸奥；階上岳（菊地，1960），名久井岳（菊地，1964）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国，九州），朝鮮，満州，東シベリア。

記事：低地の山野から亜高山帯草原にわたって生える。花色の変異が著しく帯紫褐色から淡黄色までの間にいろいろな中間型があり，同一の集団内に現われる。淡黄色花の型を form. *flavescens* Makino キバナヤマオダマキとして区別することがある。又，距の上端部の内曲する型は var. *Oxysepala* (Trautv. et Mey.) Kitamura. オオヤマオダマキとして区別される。アジア大陸及び北海道産のもの，本州の亜高山帯産のものは概ねオオヤマオダマキ型のものであるが，中間型があって区別の不明確な場合がある。

361. *Aconitum gigas* Léveillé et Vaniot オオレイジンソウ，エゾノレイジンソウ

標本産地：陸中；遠島山（菊地，1952，1953）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北中部），樺太，ウスリー。

記事：山地帯上部から亜高山帯の林下の水湿の多い所に生える。本地域に於ては上記の遠島山のみ知られ，海拔 1,200m のブナ林下に群生する。この山は古くから林内放牧が行なわれ，しばしば，この植物の採食のために起ると信ずべき牛の中毒例が知られている。本州産の型は *A. gigas* Lev. et Van. var. *hondoense* (Nakai) Tamura として区別されることがあるが，明確な差異は認めがたい。

362. *A. pterocaulis* Koidzumi アズマレイジンソウ

標本産地：陸中；姫神山麓（菊地，1947），藤沢（菊地，1953），猿沢（菊地，1960），米内（菊地，1966）。

一般分布地域：日本（本州北中部）。

記事：低山地の林内に生えるが，知られたる産地は少なく，本地域に於ては稀産の植物である。

363. *A. japonicum* Thunb. var. *iwatekense* (Nakai) M. Kikuchi センウズモドキ

標本産地：陸前；五葉山（菊地，1962；小水内長太郎，1958），末崎（菊地，1953），雄勝（菊地，1961），広田（菊地，1955），鮎川（菊地，1966），津山町虚空蔵尊境内（菊地，1963）。陸中；多々良山（菊地，1965），梶鼻溪（佐々木洋一，1954），大竈（菊地，1964），谷内（吉田長次郎，1920），小本（菊地，1949，1961），田老（菊地，1955），大川目（菊地，1952），元村（菊地，1954），日出島（菊地，1961），久慈（菊地，1952，1956），種市（菊地，1950），荷沢峠（菊地，1957），小谷島（菊地，1961），野田（小水内正明，1962），安家森（高橋政利，1965），堺の神岳（菊地，1954）仙人峠（菊地，1957；小水内正明，1957），区界（菊地，1949，1959，1963；菅谷保之，1958），磯鶏（菊地，1965），黒森山（菊地，1965），早池峯山（菊地，1950，1960；伊藤敬太郎，1963；高橋政利，1963；染谷徳五郎，1903）。陸奥；福岡（菊地，1965），名久井岳（菊地，1964）。

一般分布地域：日本（本州北部太平洋岸の山地）。

記事：この植物は従来ヤマトリカブト (*A. japonicum* Thunb.)，或はオクトリカブト (*A. subcuneatum* Nakai) と同定記録されてきたものであるが，著者はヤマトリカブトの変種であるとの見解の下に *A. japonicum* Thunb. var. *iwatekense* (Nakai) M. Kikuchi の新組合せの学名を提案することにした*。最近，田村道夫氏は，Handel-Mazzetti (1939) 及び Munz (1945) 両氏の見解に同調して，*A. japonicum* のタイプはヤマトリカブトではなく，オクトリカブトの貧弱なる標本であると考えた**。しかし彼の示したタ

* *Aconitum japonicum* Thunb. var. *iwatekense* (Nakai) M. Kikuchi, comb. nov. = *A. iwatekense* Nakai in Bull. Nat. Sci. Mus. No. 32, p. 35 (1953); *A. metajaponicum* Nakai var. *iwatekense* (Nakai) Tamura et Namba in Sci. Rep. Coll. Gen. Educ. Osaka Univ. No. 9, p. 128 (1960).

** Tamura, M. & Namba, T.: *Aconitum* of Honshū, Shikoku and Kyūshū.—Sci. Rep. Coll. Gen. Educ. Osaka Univ. No. 9, p. 132 (1960).

イブの写真図版は、私見によれば、オクトリカブトの不完全標本ともとれるし、ヤマトリカブトの異常型(時々、ヤマトリカブトの集団中に見られる)であるとも見ることができる。Thunberg 氏の日本滞在中の足跡や、標本の提供者となった彼の門弟らの行動範囲などを考慮に入れると、従来通り、*A. japonicum* のタイプはヤマトリカブトの不完全標本であると考えざるを得ない。ヤマトリカブト(広義)は本州の北中部太平洋岸に広く分布する植物であるように見える。東北地方では主に阿武隈山地に生える。それより北方の地域(北上山地及び奥羽山系の東側斜面の低山地)では葉のきれこみのより浅く、花柄の毛は開出性(少数の例外はある)で、子房及び果実の上方に斜上性の粗長毛のある形となる。この形は中井猛之進氏によって記載された、*A. iwatekense* Nakai センウズモドキ(タイプは一ノ関市三ノ関産、千葉芳雄1912年採集)であると思う。本地域産の標本を多数検した結果、現在まで得られた標本に関する限りでは他の型のものは認められない。センウズモドキはヤマトリカブトの分布の北限界付近で発生した北方分化型と考えたい。陸前金華山島にはセンウズモドキに似て、全体小さく、茎の高さ20~30cm、花の数もより少なく1茎2~5個内外のものがあり、栽培実験の結果も同様であって、この矮小型は同島に於て分化した1型と考え、キンカウズ *A. japonicum* var. *iwatekense* form. *kinkazanense* (form. nov.) の名を与えることにする*。

364. *Anemonopsis macrophylla* Siebold et Zuccarini レンゲシヨウマ

標本産地：陸前；五葉山(菊地，1954；小水内長太郎，1955)，女川(菊地，1963)。陸中；保呂羽山(星武夫1958)，中川(菊地，1949)，室根山(菊地，1951；菊池みほ，1916)。

一般分布地域：日本(本州北中部)。

記事：日本の固有属。ただ1種レンゲシヨウマのみが知られる。稀産の植物で低山地の林下に生える。本地域は本種の北限分布地域にあたり、五葉山麓(上有住側)は北限産地である。東北地方の日本海側からは、いまだ確実なる産地が知られていない。

365. *Actaea asiatica* Hara ルイヨウシヨウマ

標本産地：陸前；五葉山(菊地，1962)。陸中；折爪岳(菊地，1959)，砥森山(菊地，1960)，保呂羽山(菊地，1959)，早池峯山(菊地，1947，1956)，小国(菊地，1959)，長岡(菊地，1957)，遠島山(菊地，1952)，大志田(菊地，1962)，仙人峠(小水内正明，1957)，白見山(菊地，1963)，姫神山(菊地，1948，1961；赤石俊一，1961)。陸奥；福岡(菊地，1957)，階上岳(菊地，1964)，名久井岳(菊地，1964)。

一般分布地域：日本(北海道，本州，四国，九州)，中国，満州，ウスリー，朝鮮。

記事：山地林内に稀に生える。

366. *Cimicifuga simplex* Wormskjold サラシナシヨウマ

標本産地：陸前；五葉山(菊地，1962)。陸中；区界(菅谷保之，1958)，猊鼻溪(佐々木洋一，1954)，仙人峠(小水内正明，1957)，川目(染谷徳五郎，1909)。

一般分布地域：日本(北海道，本州，四国，九州)，樺太，千島，カムチャッカ。

記事：低山地から亜高山帯にわたり林内或は草原に生える。全域にやや普通に産す。

367. *C. acerina* (Sieb. et Zucc.) C. Tanaka オオバシヨウマ，キケンシヨウマ

* *Aconitum japonicum* Thunb. var. *iwatekense* (Nakai) M. Kikuchi form. *kinkazanense* M. Kikuchi, form. nov.—Planta debilis. Caulis abbreviatus gracilis ca. 20—30cm longus. Flos perpauca unicauline 2—5. Ceterum ut in tupo. Hab. in Prov. Rikuzen Insul. Kinkazan (leg. M. Kikuchi, anno 1962, tupus in IUH.).

標本産地：陸前；横山（菊地，1963）。陸中；国見山（菊地，1960），玉の脇（菊地，1956），藤沢（菊地，1953），山形（菊地，1958），川井（松草昭彦，1961），釜石市小川（菊地，1965），狹鼻溪（佐々木洋一，1954），仙人峠（小水内正明，1957），姫神山（染谷徳五郎，1909）。陸奥；名久井岳（菊地，1963）。

一般分布地域：日本（本州，四国，九州）。

記事：山地の林内に生える。日本の固有種。

368. *Coptis trifolia* (Linn.) Salisbury ミツバオウレン

標本産地：陸中；早池峯山（菊地，1946，1948，1959），薬師ヶ岳（菊地，1959）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北中部），北半球の寒帯，亜寒帯一般。

記事：高山帯，亜高山帯の林下，或は湿原に生え，日本の中部以北の高山では極めて普通の植物である。本地域に於ては高山帯をもつ山岳の少ないことに関連して，早池峯山及びその連峯の薬師ヶ岳のみに分布する。

369. *C. japonica* (Thunb.) Makino オウレン

標本産地：セリバ型—陸前；柳津虚空蔵尊境内（菊地，1964）。陸中；白見山（菊地，1963），早池峯山（菊地，1959），薬師ヶ岳（菊地，1959；小水内長太郎，1950），亀ヶ森（菊地，1958），達曾部（菊地，1958），国見山（菊地・寺方，1959），猿沢（菊地，1956）。コセリバ型—陸前；牡鹿町泊浜（平塚清五郎，1963）。陸中；白見山（菊地，1963），藤沢（菊地，1959），国見山（菊地，1959），猿沢（菊地，1947，1956，1966）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国）。—日本の固有種。

記事：低山地から亜高山帯にかけて林内の陰地に生える。葉型の変化に着目して，キクバオウレン（*var. japonica*，1回3出複葉型），セリバオウレン（*var. dissecta* Nakai，2回3出複葉型），コセリバオウレン（*var. major* Satake，3回3出複葉型）の3型に区別されているが，しばしば野外に於て同一の集団の中に混生することがあり，又中間型も存在するが，その中で基準型のキクバ型のものは東北地方に於ては日本海側の山地に限定された分布域をもつようである。本地域に於てはセリバ型とコセリバ型の両型が知られ，多くの集団ではコセリバ型のものである。セリバ型のもものは産地は少ない。又同一集団に両型を含む場合がある（例：猿沢，国見山，白見山などの産地）。一般に雌雄異株植物と見られているが，しばしば同一株に雌雄の両花をつけたり，両性花をつけたり，又前年の雄株は翌年には雌株となる場合が観察される。それ故この植物の性はテンナンショウ属の性と同様に，個体の栄養状態によって決定されるものと推定される。

370. *Isopyrum raddeanum* (Regel) Maximowicz チチブシロガネソウ

標本産地：陸中；早池峯山（村井三郎，岩手県基準帯植物目録 p.33，1934—ナンブシロガネソウの新和名と共に産地は門馬として記録された）。

一般分布地域：日本（本州北中部），朝鮮，満州，ウスリー。

記事：この植物は稀産種で，東アジア地方の残存植物と考えられ，奥羽地方に於ては早池峯山のみに知られる。著者は遺憾ながら，いまだ，その生育地点を確かめることができない。本種に関する詳しい記事は脚註にあげた文献に出ている*。

371. *Trollius Riederianus* Fischer et Meyer *var. japonicus* (Miq.) Ohwi シナノキンバイソウ

標本産地：陸中；早池峯山（菊地，1959；小水内長太郎，1955），

* 村井三郎：岩手特産の高山植物。森林文化，創刊号 p.29（1947）。
菊地政雄・小水内長太郎：陸中早池峯連峯の植物 p.12（1961）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北中部），

記事：高山帯，亜高山帯の湿性の草原に生え，しばしば群生する。本地域では従来この植物の産地は知られていないのであるが，近頃小水内長太郎氏によって，早池峯山に自生することが明かにせられた（小水内長太郎：シナノキンバイ早池峯山に産す。植物研究雑誌32，p.68，1957）。

372. *Caltha palustris* Linn. form. *decumbens* Makino エンコウソウ

標本産地：陸中；区界（菊地，1956），1958；菅谷保之，1958），外山（菊地，1951），庄ヶ畑（菊地，1954），米内（菊地，1953），岩山（菊地，1958）。

一般分布地域：日本（本州，九州の低所湿地），種としては北海道，樺太，千島。一北半球温帯一般。

記事：日本には近縁の型が3つ知られ，リュウキンカ *C. palustris* var. *membranacea* Turcz. は高山の湿原に生え，茎は一般に斜上性。同じく北海道及び本州北部の湿原に生え，大形に發育する型はエゾリュウキンカ *C. palustris* var. *Barthel* Hance である。本地域には上記のエンコウソウ型のみ知られる。この型は茎は初めから横臥して匍匐型を呈することで区別されるが，標本上の区別はむずかしい。

373. *Glaucidium palmatum* Siebold et Zuccarini シラネアオイ

標本産地：陸前；五葉山（笠村祥二；岩手県沿岸帯植物誌，p.38，1950）。陸中；鉄ヶ崎（菊地，1946，1949，1957），猿沢（菊地，1948），赤沢（菊地，1957），姫神山（菊地，1948，1950，1960），多々良山（菊池，1964），大志田（菊地，1962），折壁峠（小水内長太郎，1965），高洞山（菊地，1963），区界（菊地，1956），思徳（小水内長太郎，1961）。陸奥；階上岳（菊地，1960；大石文雄，1957）。

一般分布地域：日本（北海道，本州北中部）。

記事：日本の固有種，代表的な日本海側分布要素と考えられてきているが，本地域に於ても散在的分布を示す。著者は永年本地域内の分布資料を注意深く集めているのであるが，上記の産地はそのすべてである。東北地方の奥羽山系以西の地域では極めて普通の植物であるのに，本地域に於ては非常に稀な植物で，隔離分布性が強く，遺存的性格を示すことは注目すべき事実である。

374. *Paeonia ovata* Maximowicz ベニバナヤマジャクヤク

標本産地：陸前；金華山島（菊地，1956，1961，1962，1963，1965）。陸中；上米内（菊地，1962），姫神山（菊地，1962），安家（菊地，1957），砥森山（菊地，1960），外山（菊地，1958），区界（菅谷保之，1958），龍泉洞（菊地，1957），宮古（菊地，1946）。

一般分布地域：日本（北海道，本州，四国），朝鮮，満州。

var. *japonica* Makino ヤマジャクヤク

標本産地：陸中；姫神山（菊地，1960），有芸（菊地，1966），多々良山（菊地，1964）。

一般分布地域：日本（本州，四国，九州）。

記事：ヤマジャクヤクの一群はそれぞれを別種と見る見解が支配的であるが，本地域内の自生集団の観察結果によれば，ヤマジャクヤク及びベニバナジャクヤクを別種とみる説には賛成しかねる。柱頭の形にも亦，葉裏の軟毛の有無にも決定的区別はないものと考えられる。両型は別集団をなしていることは，たしかである故変種段階の分化をしたものであろう。ベニバナ型は一般に葉裏有毛であるが，金華山島産（鹿の不採食植物である故，この島では非常に個体数が多い）の大多数のものは葉裏無毛で，ケナンベニバナヤマジャクヤクの型のものである。〔未完〕